

漁業組合ノ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ利用
セシムルコトヲ得ル施設、出資及剩餘金配當等ニ
關スル件

〔昭和九年七月二十五日〕
〔農林省令第十七號〕

第一條 左ニ掲グル漁業組合ノ施設ハ漁業法第四十三條ノ二第二項ノ規定ニ依リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ之ヲ利用セシムルコトヲ得

- 一、船揚場、魚揚場、乾場、蓄養場其ノ他ノ設備
- 二、漁獲物ノ保藏、運搬又ハ販賣ニ關スル設備
- 三、給水設備、電氣設備又ハ浴場

第二條 漁業法第四十三條ノ二第二項ノ組合員タルコトヲ得ザル者ト稱スルハ法令若ハ規約ノ定ムル所ニ依リ又ハ出資ノ能力ナキ爲漁業組合ニ加入スルコトヲ得ザル者ヲ謂フ

第三條 漁業組合第一條ノ規定ニ依リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ

漁業組合ノ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ利用セシムルコトヲ得ル施設、
出資及剩餘金配當等ニ關スル件

利用セシムル場合ニ於テハ規約ニ其ノ旨ヲ定ムベシ

第四條 漁業組合第一條ノ規定ニ依リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシメントスルトキハ設立ノ許可申請書又ハ規約變更、合併若ハ分割ノ認可申請書ニ漁業組合令第十五條第二項又ハ第二十二條第三項ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一、組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ施設ヲ利用セシムル理由

二、施設ノ規模

三、組合員ノ施設利用ノ程度

四、事業施行ノ方法

五、設備費

六、一事業年度ノ收支概算

七、組合員數及組合員タルコトヲ得ザル者ニシテ施設ヲ利用スルモノノ見込數

第五條 組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ漁業組合ノ施設ヲ利用セシムル場合ニ於テ徵收スル利用料ハ實費ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條 漁業組合ハ第一條ノ規定ニ依ル組合ノ施設ノ利用ニ付組合員ノ利用ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備置クベシ

第七條 前六條ノ規定ハ漁業組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第八條 出資一口ノ金額ハ漁業協同組合ニ在リテハ參拾圓ヲ、漁業組合聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 出資ノ第一回ノ拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第十條 漁業協同組合又ハ漁業組合聯合會ガ新ニ加入スル者ヨリ過怠金ヲ徵收スルトキニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收シ又ハ構成者ヨリ過怠金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ脱退シタル構成者ニ對シ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲サザル場合ニ於テ其ノ拂戻ヲ爲サザル金額ニ付亦同シ

第十一條 漁業協同組合又ハ漁業組合聯合會ノ剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ
取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テザルモノハ拂込ミタル出資額ガ出資總額ノ二分ノ一ニ滿タザル場合ニ

漁業組合ノ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ利用セシムルコトヲ得ル施設、
出資及剩餘金配當等ニ關スル件

限り配當スベキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 漁業協同組合ニ非ズシテ漁業法第四十三條ノ五ノ組織ヲ有スル漁業組合ノ剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 理事及監事ハ規約ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ズ

第十四條 漁業組合令ニ依リ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ヨリ農林大臣ニ差出スベキ書類ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スベシ

附 則

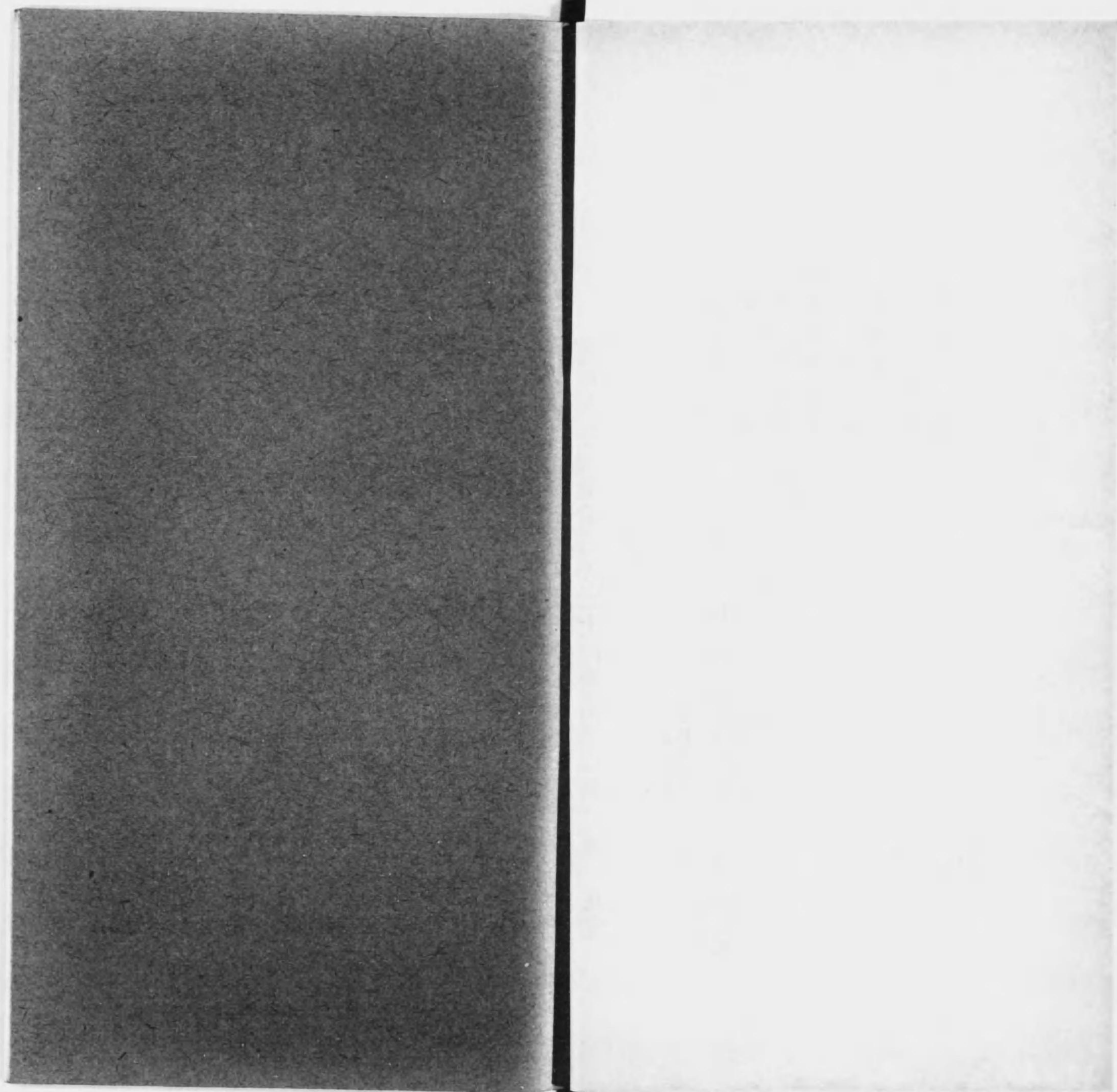
本令ハ昭和八年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年勅令第二百三十四號第二條第二號ノ規定
ニ依リ指定シタル漁業名稱ノ件

〔昭和九年七月二十五日〕
〔農林省告示第二百六十一號〕

昭和九年勅令第二百三十四號第二條第二號ノ規定ニ依リ指定シタル漁業左ノ如シ

- 一、寄魚漁業
- 二、建切網漁業
- 三、建廻網漁業
- 四、地曳網漁業
- 五、船曳網漁業
- 六、旋網漁業
- 七、敷網漁業
- 八、寄網漁業



漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式

〔明治四十四年三月二十三日〕
〔農商務省告示第百八十九號〕

漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式左ノ通相定ム
第一號

收入
印紙

入漁權設定(保存)登録申請

一、免許番號

專用漁業權免許第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日入漁權設定行爲(慣行)ニ因ル

一、登録ノ目的

入漁權ノ設定(保存)

一、其ノ他ノ登録事項

漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一、入漁スヘキ區域

別紙漁場圖ノ通(専用漁場全部)

一、漁業ノ種類 漁獲物ノ種類

何々漁業 何々

漁業時期
自何月何日
至何月何日

(一) 存續期間

(一) 入漁料
何箇年何程

(一) 其ノ他ノ權利義務
何々

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所
登錄權利者 何 某 印

登錄義務者 何 某 印

農商務大臣氏名殿
關係書類ノ表示

一、入漁權設定證書 一通

一、登錄濟證 一通

(一) 漁場圖 (二通)

(一) 何々 (一通)

(一) 何々 (一通)

計 何通

參照 漁業登録令第二十六條、第二十七條及第三十九條

第二號

收入印紙 抵當權設定(先取特權保存)登録申請

一、免許番號

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日抵當權設定行爲(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

抵當權ノ設定(先取特權ノ保存)

一、其ノ他ノ登録事項

一、債權金額(債權價格)

金 何 圓

(一)辨濟期
明治何年何月何日

(一)利
年何割

(一)何
何々々

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録權利者

何

某 印

住 所

登録義務者

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、抵當權設定證書 一通

一、登録濟證 一通

(一、何 一通)

(一、何 一通)

計 何通

參照 漁業登錄令第二十六條、第二十七條、第四十一條乃至第四十四條及第四十六條

漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

第三號

一六八

收入
印紙

賃借權設定登録申請

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日賃借借契約ニ因ル

一、登録ノ目的

賃借權ノ設定

一、其ノ他ノ登録事項

一、借 賃

何箇年何程

(一) 存續期間
何箇年

(二) 何々々

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録權利者

何

某 印

住 所

登録義務者

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、賃借借證書 一通

一、登録濟證 一通

(一)、何々々々(一通)

(二)、何々々(一通)

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一六九

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一七〇

計 何通

参照 漁業登録令第二十六條、第二十七條及第四十七條

第四號

收入
印紙

漁業權(何權)移轉登録申請

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

(一入漁登録番號)
第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日賣買契約(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

漁業權(何權)ノ移轉

一、其ノ他ノ登録事項

(一何々)
何々

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録權利者

何

某 印

住 所

登録義務者

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、賣 買 證 書 一通

一、登 録 濟 證 一通

(一、何々 一通)

(一、何々 一通)

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一七一

漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式

一七二

計 何通

參照 漁業登錄令第四條、第二十六條、第二十七條、第四十條、第四十三條、第四十五條及第四十六條

第五號

收入
印紙

漁業權轉貸登録申請

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日轉貸借契約ニ因ル

一、登録ノ目的

漁業權ノ轉貸

一、其ノ他ノ登録事項

一、借 賃

何箇年何程

(一)存續期間
何箇年

(一)何々々

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録權利者

何

某 印

住 所

登録義務者

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、轉貸借證書 一通

一、登録濟證 一通

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一七三

漁業登錄令ニ依ル登錄申請書書式

一七四

- (一) 賃貸人ノ承諾書 一通
- (二) 何々々 一通
- (三) 何々々 一通

計 何通

參照 漁業登錄令第四十七條

第六號

收入印紙

入漁權(何權)變更登錄申請

- 一、免許番號
- 專用漁業權(何漁業權)免許第何號
- 一、入漁登錄番號
- 第何號
- 一、登錄原因及其ノ日附
- 明治何年何月何日入漁權變更契約(何々)ニ因ル

一、登錄ノ目的

入漁區域ヲ別紙漁場圖ノ通變更(何々ヲ何々ニ變更)

右登錄相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住所

登錄權利者

何

某印

住所

登錄義務者

何

某印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

- 一、契約書 一通
- 一、登錄濟證 一通
- 一、漁場圖 二通
- (二) 何々々 一通

漁業登錄令ニ依ル登錄申請書書式

一七五

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一七六

(一、何々 一通)

計 何通

参照 漁業登録令第五條

第七號

收入
印紙

漁業權(何權)抹消登録申請

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

(一入漁登録番號)第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日抛棄(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

漁業權(順位何番何權)抹消ノ登録

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録名義人

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、申請書副本 一通

一、登録済證 一通

(一、登録シタル權利者ノ承諾書又ハ裁判ノ謄本 一通)

(一、何々々々 一通)

(一、何々々々 一通)

計 何通

参照 漁業登録令第四十八條及第五十條乃至第五十三條

第八號

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一七七

漁業登錄令ニ依ル登録申請書書式

收入 假登録申請
印紙

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

(一)入漁登録番號
第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日賣買豫約(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

漁業權移轉ノ請求權(何權ノ何々)ノ假登録
右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

假登録權利者

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、賣買豫約證書 一通

一、假登録義務者ノ承諾書 一通

一、登録 済 證 一通

(一)何々々 一通

(一)何々々 一通

計 何通

參照 漁業登録令第二條及第二十條

第九號

收入 假登録ノ抹消登録申請
印紙

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

(一) 入漁登録番號
第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日抛棄(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

順位何番漁業權移轉ノ請求權(順位何番何權ノ何々)ノ假登録ノ抹消登録
右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録名義人 何 某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、申請書副本 一通

一、登録済證 一通

(一) 何 々 一通

(二) 何 々 一通

計 何通

参照 漁業登録令第五十三條及第五十四條

第十號

收入 登録名義人表示ノ變更登録申請
印紙

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

(一) 入漁登録番號
第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日轉住(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一八二

住所ヲ何縣何郡何村大字何々番地ニ變更(何々ヲ何々ニ變更)
右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録名義人

何

某 印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、戸籍ノ謄本若ハ抄本又ハ表示變更ヲ證スルニ足ルヘキ書面 一通

一、登録 濟 證 一通

(一、何 々 一通)

(一、何 々 一通)

計 何通

參照 漁業登録令第四條及第十九條

第十一號

取人
印紙

登録ノ更正登録申請

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

(一入漁登録番號)
第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日登録ニ錯誤アリタルニ因ル

一、登録ノ目的

順位何番何々登録中何々ヲ何々ニ更正

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住 所

登録權利者

何

某 印

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一八三

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一八四

住所

登録義務者

何

某印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

一、錯誤ニ關スル通知書 一通

一、登録濟證 一通

(一、何々々々 一通)

(一、何々々々 一通)

計 何通

参照 漁業登録令第五條及第三十七條

第十二號

收入印紙

回復登録申請

一、免許番號

專用漁業權(何漁業權)免許第何號

(一入漁登録番號)第何號

一、登録原因及其ノ日附

明治何年何月何日何裁判所ノ登録回復ヲ命スル判決(何々)ニ因ル

一、登録ノ目的

抹消ニ係ル登録順位何番何々ノ回復登録(順位何番ノ登録中抹消ニ係ル何々トア

ル部分ノ回復登録)

右登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年 月 日

住所

登録權利者

何

某印

農商務大臣(地方長官)氏名殿

關係書類ノ表示

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一八五

漁業登録令ニ依ル登録申請書書式

一八六

一、判決正本 一通

(二、何々々 一通)

(二、何々々 一通)

計 何通

参照 漁業登録令第五條及第三十八條

一、登録申請書ヲ作成スルニハ漁業登録令第一條、第十七條、第十八條、第二十四條、第二十五條、第二十八條乃至第三十四條、漁業登録令施行規則第四十九條、第五十條、登録税法第十五條ノ二及各號書式ノ末尾ニ記載セル各條項ヲ参照スルコトヲ要ス

一、本告示書式ニ據リ難キ場合ニ於テハ法令ニ從ヒ適宜申請書ヲ作ルコトヲ得

登録税法 (抄)

明治二十九年三月二十八日法律第二十七號
 大正七年三月同第十四號改正
 大正十一年四月同第十六號改正
 昭和三年三月同第六號改正

第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區分ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一、漁業權ノ移轉	相續	每一件	金壹圓
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五圓
二、漁業權ノ持分ノ移轉	相續	每一件	金貳拾錢
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金壹圓
三、入漁權ノ設定		每一件	金參圓
四、入漁權ノ保存		每一件	金五拾錢

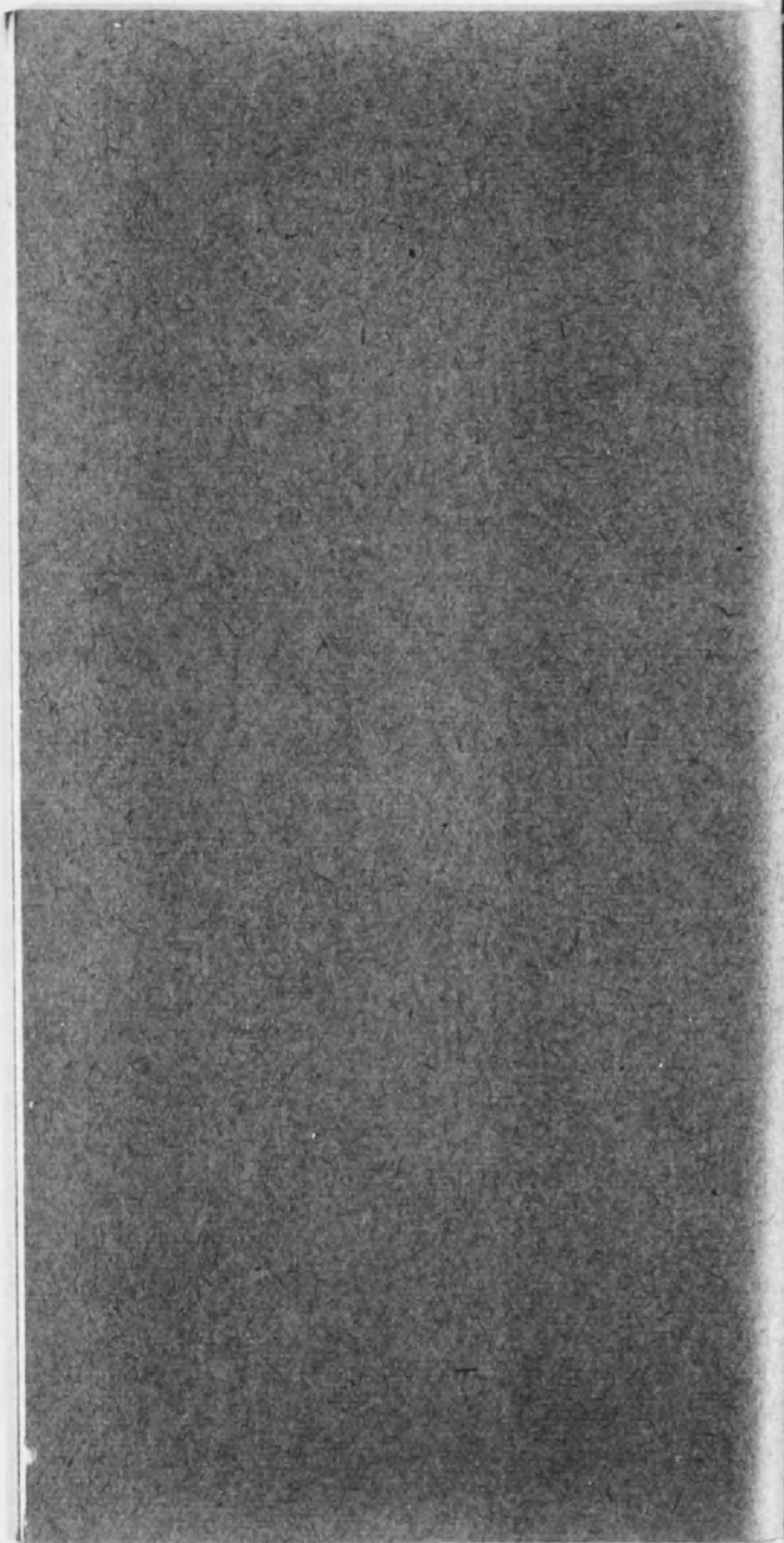
登録税法

登録税法

五、入漁權ノ移轉	相續	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五拾錢
六、入漁權ノ持分ノ移轉	相續	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金貳圓
七、賃借權ノ取得	相續	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金拾錢
八、先取得權ノ保存又ハ取得	相續	相續以外ノ原因ニ因ル取得	每一件	金五拾錢
九、抵當權ノ設定又ハ移轉	相續	債權金額又ハ工事費用豫算金額	債權金額 每一件	千分ノ五・五 金壹圓

登録税法

十、信託ノ登録	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金貳圓
十一、競賣、強制管理ノ申立	債權金額	每一件	千分ノ五・五
十二、假差押、假處分	債權金額	每一件	千分ノ四
十三、抵當アル債權ノ差押	債權金額	每一件	千分ノ五・五
十四、滞納處分以外ノ原因ニ依ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ	債權金額	每一件	千分ノ四
十五、抹消シタル登録ノ回復	債權金額	每一件	金四拾錢
十六、假登録	債權金額	每一件	金四拾錢
十七、附記登録	債權金額	每一件	金貳拾錢
十八、登録ノ更正、變更又ハ抹消	債權金額	每一件	金貳拾錢



機船底曳網漁業取締規則

〔昭和九年七月二十五日
農林省令第二十號〕

第一條 機船底曳網漁業トハ汽船「トロール」漁業及農林大臣ノ指定スル漁業ヲ除ク
ノ外螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ依リ手操網、打瀬網其ノ他ノ底曳網ヲ使用シテ爲ス
漁業ヲ謂フ

前項ノ規定ニ依リ指定シタル漁業ノ名稱ハ之ヲ告示ス

第二條 機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ船舶毎ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シ
タル申請書ヲ提出スベシ

一、漁業名稱（一艘曳機船底曳網漁業又ハ二艘曳機船底曳網漁業ノ別）

二、漁業根據地（漁業根據地ニ以上アル場合ニ於テハ之ヲ主タル漁業根據地及從々
ル漁業根據地ニ區別シテ記載スベシ）

三、操業區域

四、船名

機船底曳網漁業取締規則

機船底曳網漁業取締規則

一九二

- 五、船舶總噸數
 - 六、機關ノ種類及馬力
 - 七、主タル漁獲物ノ種類
- 二人以上共同シテ許可ヲ受ケントスルトキハ内一人ヲ代表者ト定メ其ノ氏名又ハ名稱ヲ申請書ニ記載スベシ
- 許可申請者（二人以上共同シテ許可ヲ受ケントスル場合ニ於テハ代表者）漁業根據地（漁業根據地ニ以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地）ニ住所ヲ有セザルトキハ其ノ漁業根據地ニ本則ニ依リ行政官廳ヨリ書類ノ送付ヲ受クベキ場所（以下書類送付先ト稱ス）ヲ定メ之ヲ申請書ニ記載スベシ
- 第一項ノ申請書ニハ漁船検査證書寫及船舶原簿謄本又ハ船艦札臺帳謄本（漁船検査證書又ハ船艦札ヲ受有スルコトヲ要セザル船舶ニ在リテハ之ニ準ズベキ書類）ヲ添附スベシ
- 前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
- 第三條 建造前又ハ建造中ノ船舶ニ付機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ船舶

毎ニ豫メ起業ノ認可ヲ申請スベシ船舶ヲ讓受ケ若ハ借受ケ又ハ貸付シタル船舶ノ返還ヲ受ケ機船底曳網漁業ヲ營マントスル者其ノ讓受若ハ借受前又ハ返還ヲ受クル前機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケントスルトキ亦同シ

前項ノ認可申請書ニハ前條第一項各號ニ掲グル事項ヲ記載シ様式第一號ニ依ル船舶件名書ヲ添附スベシ

前條第二項、第三項及第五項ノ規定ハ第一項ノ認可申請ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ認可ヲ受ケタル者認可ヲ受ケタル日ヨリ六月以内又ハ農林大臣ノ指定シタル期間内ニ前條第一項乃至第四項ノ規定ニ依ル書類ヲ提出セザルトキハ第一項ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ農林大臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認メ其ノ期間ノ延長ヲ認可シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 農林大臣機船底曳網漁業ノ許可ヲ爲シタルトキハ様式第二號ニ依ル許可證ヲ交付ス

許可證ハ之ヲ船舶内ニ保持スベシ

第五條 機船底曳網漁業者ハ許可ヲ受ケタル船舶ノ船首兩側及艙部ニ様式第三號ニ依ル機船底曳網漁業取締規則

一九三

機船底曳網漁業取締規則

一九四

リ許可番號ヲ表記スベシ

第六條 機船底曳網漁業者ハ其ノ使用スル底曳網ノ浮子網ノ兩端ニ様式第四號ニ依ル金屬製ノ管ヲ貫通結著スベシ

第七條 機船底曳網漁業ノ許可ノ期間ハ五年以内トス

第八條 機船底曳網漁業ハ農林大臣ノ告示シタル禁止區域内ニ於テハ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第九條 機船底曳網漁業ハ前條ノ禁止區域ノ外農林大臣ニ於テ期間ヲ指定シテ機船底曳網漁業ヲ禁止シタル區域内ニ於テハ當該期間中之ヲ營ムコトヲ得ズ
前項ノ區域及期間ハ之ヲ告示ス

第十條 機船底曳網漁業ハ東經百三十度以東北緯四十六度以南ノ海面ニ於テハ日暮ヨリ夜明迄之ヲ營ムコトヲ得ズ但シ特ニ農林大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 機船底曳網漁業ハ許可ヲ受ケタル漁業名稱、操業區域其ノ他許可證ニ記載シタル條件若ハ制限又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ停止ノ處分ニ違反シテ之

ヲ營ムコトヲ得ズ

第十二條 機船底曳網漁業者ハ農林大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ船舶總噸數又ハ機關ノ馬力ヲ増加スルコトヲ得ズ

第十三條 機船底曳網漁業者ハ許可證ニ記載シタル漁業根據地ニ非ザレバ漁獲物ヲ陸揚シ若ハ他ノ船舶ニ轉載シ又ハ食料、燃料其ノ他操業上必要ナル物品ノ積込ヲ爲スコトヲ得ズ但シ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アルトキ又ハ特別ノ事由アル場合ニ於テ農林大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 機船底曳網漁業者漁業名稱、漁業根據地若ハ操業區域ノ變更又ハ船舶總噸數若ハ機關ノ馬力ノ増加ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ漁業根據地ノ變更ニ付許可ノ申請書ヲ提出スル場合ニ之ヲ準用ス

農林大臣第一項ノ許可ヲ爲シタル場合ニ於テハ許可證ヲ書換へ交付ス但シ漁船検査證書又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付船舶總噸數増加ノ許可ヲ爲シタル場合ニ於テハ

機船底曳網漁業取締規則

一九五

機船底曳網漁業取締規則

一九六

第四項ノ申請アリタル後之ヲ書換へ交付ス

漁船検査證書又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付船舶總噸數増加ノ許可ヲ受ケタル機船底曳網漁業者ハ其ノ船舶總噸數増加ニ關スル工事完了後遲滞ナク農林大臣ニ漁船検査證書寫及船舶原簿謄本又ハ船鑑札臺帳謄本ヲ提出シテ許可證ノ書換ヲ申請スベシ

第十五條 左ニ掲グル場合ニ於テハ機船底曳網漁業者ハ遲滞ナク農林大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

- 一、機船底曳網漁業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ
- 二、船名ニ變更アリタルトキ
- 三、船舶總噸數ニ減少アリタルトキ
- 四、機關ノ種類ニ變更アリタルトキ
- 五、機關ノ馬力ニ減少アリタルトキ
- 六、主タル漁獲物ノ種類ヲ變更シタルトキ
- 七、第二條第二項ノ代表者ニ變更アリタルトキ
- 八、書類送付先ヲ變更シタルトキ

前項第一號乃至第三號、第五號又ハ第七號ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ許可證ヲ書換へ交付ス

機船底曳網漁業者其ノ住所ヲ變更シタルニ因リ漁業根據地（漁業根據地二以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地）ニ住所ヲ有セザルニ至リタルトキハ其ノ漁業根據地ニ書類送付先ヲ定メ第一項第一號ノ住所變更ノ届書ニ之ヲ記載スベシ

第十六條 機船底曳網漁業者許可證ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ許可證ノ再交付ヲ申請スベシ

第十七條 機船底曳網漁業者ハ船長ヲ定メ其ノ氏名及住所ヲ漁業根據地（漁業根據地二以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地）ヲ管轄スル地方長官ニ届出ヅベシ

但シ漁業者自ラ船長ト爲ル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第十八條 左ノ場合ニ於テハ機船底曳網漁業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキハ被相續人又ハ合併ニ因リテ解散シタル法人ニ對シテ爲シ

機船底曳網漁業取締規則

一九七

タル機船底曳網漁業ノ許可ハ爾後相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

- 一、機船底曳網漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキ
- 二、許可ヲ受ケタル船舶ニ付機船底曳網漁業ヲ廢止シタルトキ
- 三、許可ヲ受ケタル船舶滅失シ、沈没シ、解散シ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ
- 四、船舶ヲ讓渡シ、之ヲ貸付シ、借受ケタル船舶ヲ返還シ其ノ他許可ヲ受ケタル船舶ヲ使用スル權利ヲ失ヒタルトキ

前項但書ノ場合ニ於テハ相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書面ヲ添へ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ許可證ノ書換ヲ申請スベシ

第十九條 前條ノ規定ハ起業ノ認可ニ付之ヲ準用ス

第二十條 機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル後一年以内ニ其ノ漁業ニ著手セズ又ハ引續キ二年以上之ヲ營マザルトキハ農林大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第二十一條 水産動植物ノ蕃殖保護、漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ農林大臣ハ機船底曳網漁業ヲ停止シ又ハ其ノ許可若ハ起業ノ認可ヲ制限シ若ハ取消

スコトアルベシ

機船底曳網漁業者本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ

前項ノ規定ニ依ル處分ハ當該機船底曳網漁業者ノ有スル全部ノ許可ニ付之ヲ爲スコトアルベシ

前二項ノ場合ニ於テハ當該機船底曳網漁業者ノ有スル起業ノ認可モ亦之ヲ取消スコトアルベシ

第二十二條 機船底曳網漁業ノ許可ノ效力消滅シタルトキハ直ニ許可證ヲ返納シ且第五條ノ規定ニ依リ表記シタル許可番號ヲ抹消スベシ但シ許可證ヲ返納スル事能ハザルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第十八條第一項第一號ノ場合ニ於テハ相續人、合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ清算人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スベシ

第二十三條 農林大臣漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ機船底曳網漁業者ニ對シ碇泊港及碇泊期間ヲ指定シテ機船底曳網漁船ノ碇泊ヲ命ジ又ハ機船底曳網漁船ノ検査ヲ爲スコトアルベシ

第二十四條 地方長官其ノ管轄区域内ニ在ル機船底曳網漁船ニ付機船底曳網漁業者本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ機船底曳網漁業者ニ對シ碇泊港及碇泊期間ヲ指定シテ機船底曳網漁船ノ碇泊ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ碇泊期間ハ三十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

地方長官前項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ事由ヲ具シ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第二十五條 農林大臣又ハ漁業根據地(漁業根據地ニ以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地)ヲ管轄スル地方長官漁業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ機船底曳網漁業者ニ對シ船長又ハ乗組員ノ下船又ハ乗船ノ禁止ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 漁業法第四十一條ノ規定ニ依リ漁業監督ノ權限ヲ有スル者左ニ掲グル信號ヲ爲シタルトキハ機船底曳網漁船ハ直ニ停船スベシ

一、晝間ニ在リテハ様式第五號ニ依ル停船信號ヲ掲ゲ且約一秒時ノ間隙ヲ以テ汽角、汽笛其ノ他ノ音響器ニ依リ長聲一發短聲四發ヲ連發ス

二、夜間ニ在リテハ約一秒時ノ間隙ヲ以テ閃光ニ依リ長光一閃短光四閃ヲ連閃シ且

前號ト同様ノ音響信號ヲ爲ス

前項ニ於テ長聲又ハ長光トハ約四秒乃至六秒時ノ發聲又ハ閃光ヲ謂ヒ短聲又ハ短光トハ約一秒時ノ發聲又ハ閃光ヲ謂フ

第二十七條 機船底曳網漁船ノ船長、船長ノ職務ヲ執ル者又ハ操業ノ指揮ヲ爲ス者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、許可ヲ受ケタル漁業名稱、操業區域其ノ他許可證ニ記載シタル條件又ハ制限ニ違反シテ操業シタルトキ

二、第八條、第九條第一項又ハ第十條ノ規定ニ違反シテ操業シタルトキ

三、第十三條ノ規定ニ違反シテ漁獲物ヲ陸揚シ若ハ他ノ船舶ニ轉載シ又ハ食料、燃料其ノ他操業上必要ナル物品ノ積込ヲ爲シタルトキ

四、第二十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ停止ノ處分又ハ第二十三條若ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依ル碇泊命令ニ違反シテ操業シタルトキ

第二十八條 機船底曳網漁業者漁業法第三十五條第一項ノ規定ニ違反シ同法第六十四條ノ規定ニ依リ同法第五十九條ノ規定ノ適用ヲ受タル場合ニ於テ違反行爲ヲ爲シタ

機船底曳網漁業取締規則

二〇二

ル當該機船底曳網漁船ノ船長、船長ノ職務ヲ執ル者又ハ操業ノ指揮ヲ爲ス者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 機船底曳網漁業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第五條、第六條又ハ第十四條第四項ノ規定ニ違反シタルトキ

二、第二十三條又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依ル碇泊命令ニ從ハザルトキ

三、第二十三條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第三十條 機船底曳網漁船ノ船長、船長ノ職務ヲ執ル者又ハ操業ノ指揮ヲ爲ス者左ノ

各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第五條ノ規定ニ依リ表記シタル許可番號ヲ隠蔽シ又ハ抹消シタルトキ

二、海上衝突豫防法第九條第一項第四號又ハ第五號ニ規定シタル燈火ヲ掲ゲザルトキ

三、第二十三條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

四、第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十一條 第四條第二項、第十五條第一項、第十六條、第十七條、第十八條第二項、

第十九條ノ規定ニ依リ準用セラルル第十八條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス機船底曳網漁業者第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザルトキ亦同シ

第三十二條 水産物ノ取引ヲ業トスル者、漁業法第三十五條第一項ノ規定ニ違反シテ機船底曳網漁業ヲ營ミタル者ノ漁獲物ヲ情ヲ知りテ販賣シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ漁業根據地（漁業根據地二以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地）ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

附 則

第一條 本令ハ昭和八年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 大正十年農商務省令第三十一號機船底曳網漁業取締規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ舊規則ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本令施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

第三條 本令施行前舊規則ニ依リ爲シタル許可、認可其ノ他ノ處分ハ本令ニ依リ之ヲ

機船底曳網漁業取締規則

二〇三

爲シタルモノト看做ス

第四條 本令施行前舊規則ニ依リ交付シタル許可證ハ本令ニ依リ之ヲ交付シタルモノト看做ス

第五條 附則第三條ノ規定ニ依リ機船底曳網漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ヲ受ケタルモノト看做サレタル者漁業根據地（漁業根據地ニ以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地）ニ住所ヲ有セザルトキハ本令施行ノ日ヨリ三月以内ニ其ノ漁業根據地ニ書類送付先ヲ定メ之ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ規定ニ違反シタル機船底曳網漁業者ハ科料ニ處ス

第六條 舊規則第七條ノ規定ニ依リ告示シタル禁止區域ハ本則第八條ノ規定ニ依リ之ヲ告示シタルモノト看做ス

第七條 舊規則第七條ノ二第一項ノ規定ニ依リ機船底曳網漁業ヲ禁止シタル區域及期間ハ本則第九條第一項ノ規定ニ依リ同漁業ヲ禁止シタル區域及期間ト看做ス

舊規則第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ爲シタル告示ハ之ヲ本則第九條第二項ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第八條 附則第三條ノ規定ニ依リ機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタルモノト看做サレタル者本令施行前舊規則又ハ舊規則ニ基ク處分ニ違反シタルトキハ第二十一條第二項乃至第四項及第二十四條ノ規定ノ適用ニ付テハ當該機船底曳網漁業者ハ本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタルモノト看做ス

第九條 本令施行前舊規則ニ依リ爲シタル出願、申請又ハ届出ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

様式

第一號

船舶件名書（計畫又ハ現在）

- 一、船 籍 港
- 二、船 種 及 船 名
- 三、船舶番號又ハ船鑑札番號
- 四、船體ノ長サ、幅及深サ
- 五、總 噸 數

機船底曳網漁業取締規則

機船底曳網漁業取締規則

六、機關ノ種類及馬力

七、竣工年月日

八、所有者ノ住所氏名

第二號

何第 號

機船底曳網漁業許可證

住 氏名 又ハ 名稱	船 業 名 稱	漁 業 根 據 地	漁 業 根 據 地	主 タル 漁 業 根 據 地	從 タル 漁 業 根 據 地
---------------------	------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------------	----------------------------------

縱 二十六糎
横 三十八糎

操 業 區 域	船 總 噸 數	機 關 馬 力	許 可 期 間	條 件 制 限	年 月 日
農 林 大 臣					

備考

許可番號中「何」トアル箇所ニハ漁業根據地（漁業根據地二以上アル場合ニ於テハ主タル漁業根據地）所在ノ道府縣名ノ頭字ヲ（他ノ府縣名ト混同スベキ處アル場合ニ於テハ次字ヲ併セテ）表示スルモノトス

第三號

何 1234

機船底曳網漁業取締規則

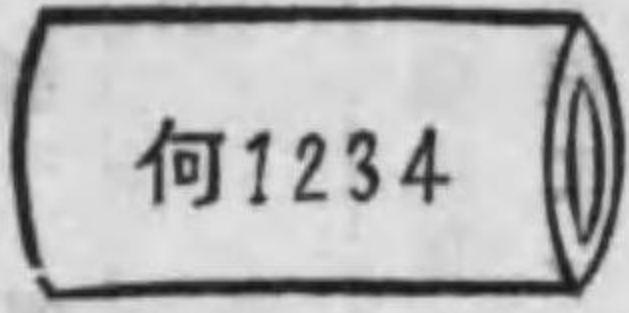
機船底曳網漁業取締規則

二〇八

備考

各文字ノ大サハ十五糎大以上、各文字ノ太サハ三糎以上、「何」ト數字トノ間隔ハ六糎以上、各數字ノ間隔ハ四糎以上トシ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

第四號



長 八糎以上
厚 二糎以上

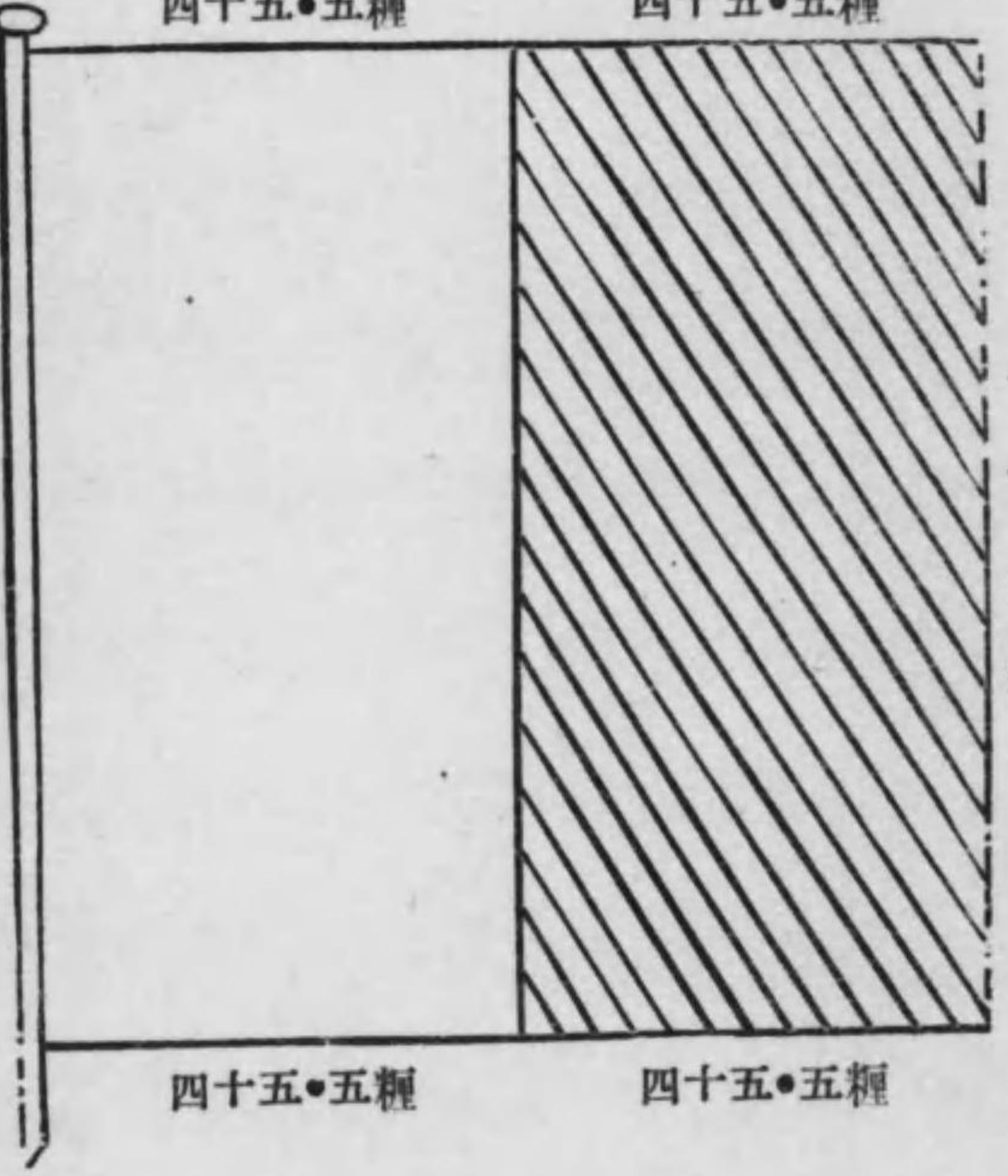
備考

一、「何1234」トアル箇所ニハ許可番號ヲ表示スルモノトス
二、各文字ノ大サハ一糎大以上トシ之ヲ管ニ明瞭ニ刻ミ付クルコトヲ要ス

第五號

七十六糎

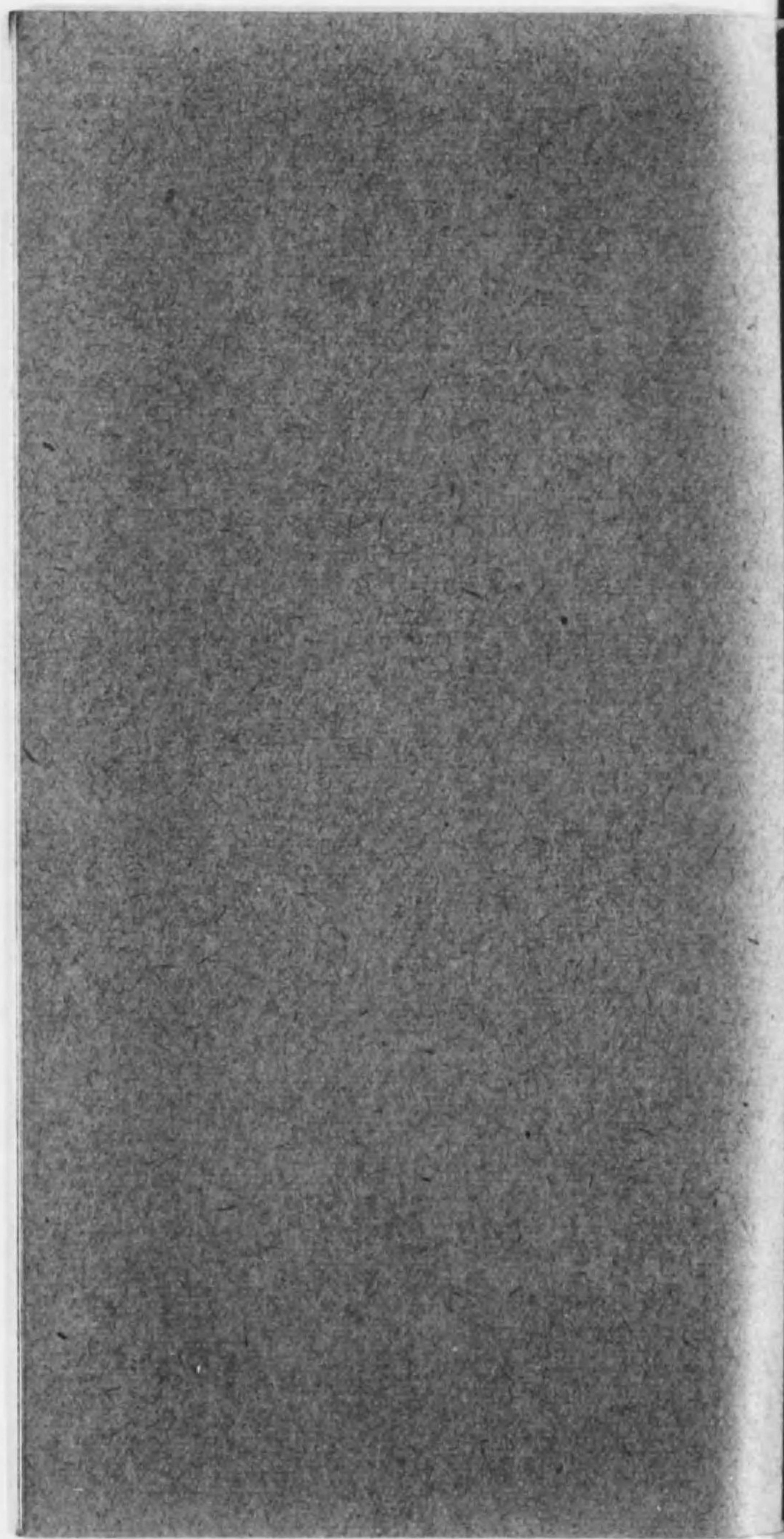
四十五・五糎



機船底曳網漁業取締規則

斜線ノ部分 藍
其ノ他ノ部分 黄

二〇九

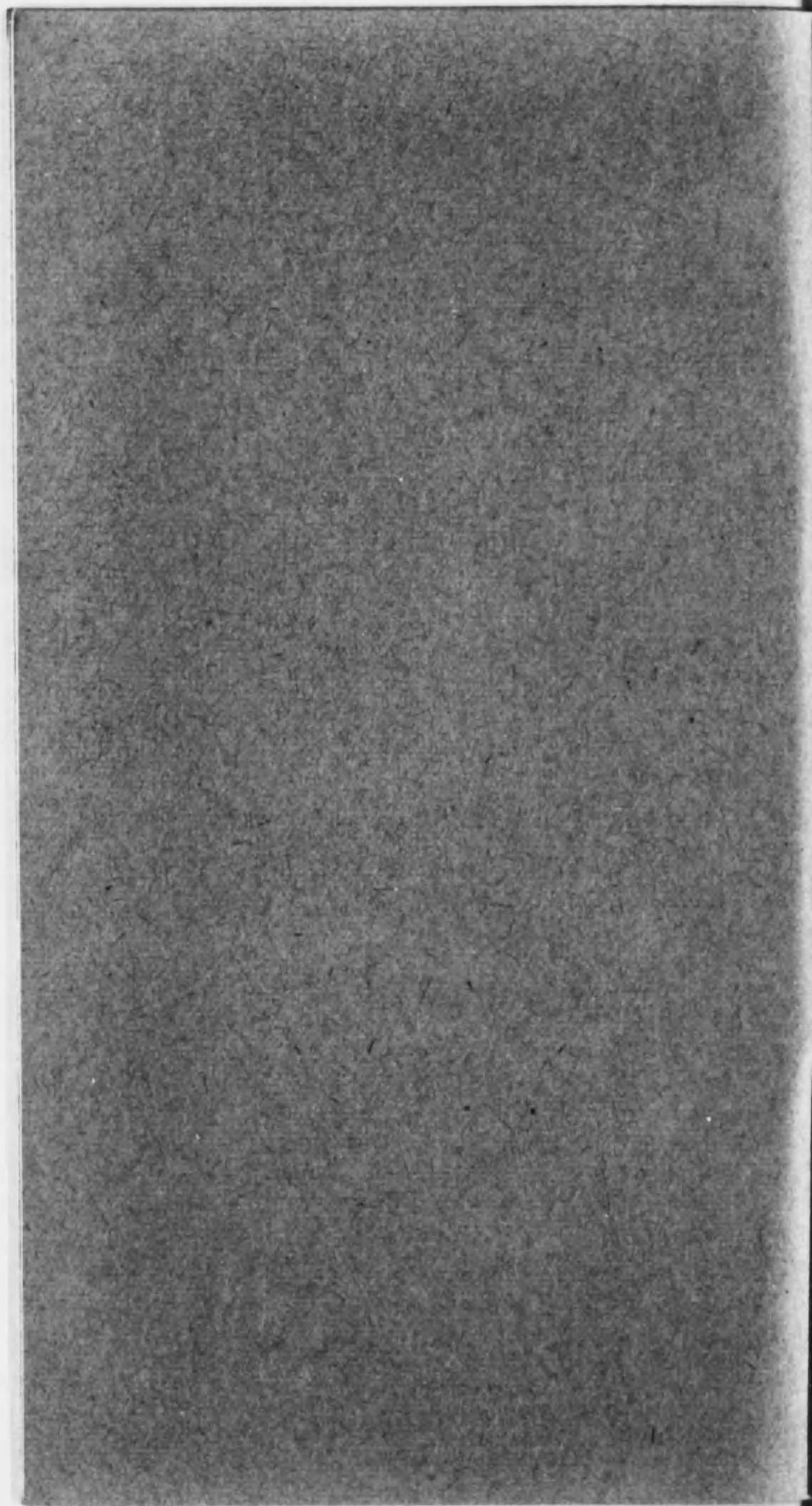


機船底曳網漁業取締規則第一條第一項ノ
規定ニ依ル漁業名稱指定

〔昭和九年七月二十五日〕
〔農林省告示第二百六十三號〕

機船底曳網漁業取締規則第一條第一項ノ規程ニ依リ指定シタル漁業ノ名稱左ノ如シ
昭和五年九月農林省告示第四百二十三號ハ昭和九年七月三十一日限之ヲ廢止ス
最大幅員二・五メートル未満ノ船舶ニ依リテ爲ス左ノ漁業

- 一、貝桁網漁業（方言貝桁、貝捲、八尺及まんがヲ含ム）
- 二、海鼠桁網漁業（方言八尺ヲ含ム）
- 三、巢曳網漁業（方言烏賊巢、烏賊漬及烏賊柴ヲ含ム）



機船底曳網漁業禁止區域

大正十年九月二十二日農商務省告示第二百二十三號、
 正十一年十月十八日農商務省告示第三百二十號改正、
 正十三年五月十九日農商務省告示第七十三號改正、
 六年五月二十六日農林省告示第三百八十八號改正、
 十二月二十七日農林省告示第三百七十八號改正、
 昭和七年

機船底曳網漁業禁止區域左ノ通定ム

- 一、大隅國佐多岬ヨリ薩摩國坊ノ岬、野間岬ヲ經テ下甌島釣掛埼ニ至ル線内
- 一ノ二、薩摩國上甌島繩瀬鼻ヨリ肥前國野母埼ニ至ル線内
- 一ノ三、肥後國天草島魚貫埼ヨリ五島列島中通島棹埼ニ至ル線内
- 二、肥前國伊王島頂上ヨリ五島列島福江島笠山埼ニ至ル線内
- 三、五島列島福江島大瀬埼ヨリ嵯峨島頂上、白瀬燈臺ヲ經テ壹岐國辰島頂上ニ至ル線内
- 四、肥前國宇久島頂上ヨリ壹岐國若宮燈臺ノ正北六海里ノ點ヲ經テ筑前國小呂島頂上ニ至ル線内

機船底曳網漁業禁止區域

- 五、肥前國加唐島ノ北端ヨリ筑前國沖島西端ヨリ二百八十五度三千間ノ點、沖島東端ヨリ北東三千間ノ點ヲ經テ長門國蓋井島南端ニ至ル線内
- 六、筑前國志賀島東端殘島西端喰合見通線、沖島頂上ヨリ長門國見島頂上ニ至ル線及對島國大星山頂上ヨリ長門國大吠山頂上ニ至ル線ニ依リ圍マレタル海面
- 七、筑前國沖島頂上ヨリ石見國高島頂上ヲ經テ出雲國日ノ岬ニ至ル線内
- 八、出雲國日ノ岬ヨリ石見國高島頂上ニ至ル線上日ノ岬ヲ距ル五海里ノ點ヨリ同岬ノ正北五海里ノ點、多古鼻ノ正北五海里ノ點ヲ經テ因幡國長尾鼻ニ至ル線内
- 八ノ二、出雲國沖御前島頂上ヨリ但馬國餘部崎ニ至ル線内
- 八ノ三、因幡國鶴崎ヨリ但馬國餘部崎ノ正北一海里ノ點、同點ヨリ大嶋山頂上ニ至ル線ト餘部崎ヨリ丹後國經ケ岬ニ至ル線トノ交叉點ヲ經テ經ケ岬ニ至ル線内
- 九、但馬國猫崎ヨリ丹後國經ケ岬ノ正北三海里ノ點、沖ノ島ノ北端ヲ經テ若狹國常神崎ニ至ル線内
- 十、若狹國鋸崎ヨリ越前國安島崎ノ正西三海里ノ點ヲ經テ能登國海士崎ニ至ル線内
- 十一、加賀國小鹽崎ヨリ能登國五十洲崎ノ北西六海里ノ點、祿剛崎ノ北北東六海里

- ノ點、小泊鼻ノ正東六海里ノ點ヲ經テ越中國生地ノ鼻ニ至ル線内
- 十二、能登國大泊鼻ヨリ越後國鳥ヶ首崎ニ至ル線内
- 十三、越中國生地ノ鼻ヨリ越後國椎谷鼻ニ至ル線内
- 十四、越後國鳥ヶ首崎ヨリ角田崎ニ至ル線内
- 十五、越後國米山崎ヨリ羽前國飛鳥南端ニ至ル線ト佐渡國野崎鼻ヨリ越後國鷺ヶ巢山頂上ニ至ル線トニ依リ圍マレタル海面
- 十六、越後國角田崎ヨリ羽前國大波渡鼻ニ至ル線内
- 十七、越後國鳥坂山頂上ヨリ粟生島南端ニ至ル線、粟生島北端ヨリ羽後國三崎ヨリ飛鳥南端ニ至ル線上三崎ヲ距ル五海里ノ點ヲ經テ鹽瀨崎ニ至ル線内
- 十七ノ二、羽後國觀音森頂上ヨリ鹽瀨崎ノ南西四海里ノ點、白崎ノ正西四海里ノ點、入道崎ノ西北西四海里ノ點ヲ經テ能代川口中中央ニ至ル線内
- 十八、羽後國入道崎ヨリ陸奥國鱸作崎、權現崎、龍飛崎、大間崎、尻矢崎ヲ經テ鮫角ニ至ル線内
- 十九、陸奥國鮫角ヨリ尻矢崎ニ至ル線上鮫角ヲ距ル五海里ノ點ヨリ鮫角ノ正東五海里

里ノ點、陸中國辨天鼻ノ正東八海里ノ點、三埼ノ正東八海里ノ點、黑埼ノ正東八海里ノ點、明神鼻ノ正東八海里ノ點、鯨埼ノ正東八海里ノ點、龜ヶ埼ノ正東八海里ノ點、御箱埼ノ正東八海里ノ點、尾埼ノ正東八海里ノ點、陸前國首埼ノ正東八海里ノ點、綾里埼ノ正東八海里ノ點、唐桑埼(御埼)ノ正東三海里ノ點、金華山頂上ノ南東五海里ノ點、磐城國鶴ノ埼ノ正東十六海里ノ點、鹽屋埼ノ正東三海里ノ點、常陸國大洗埼ノ正東十三海里ノ點ヲ經テ下總國大吠埼燈臺ニ至ル線内

二十、下總國大吠埼燈臺ヨリ常陸國大洗埼ノ正東十三海里ノ點ニ至ル線上大吠埼燈臺ヲ距ル十二海里ノ點ヨリ同燈臺ノ正東十二海里ノ點、上總國大東埼ノ南東十海里ノ點ヲ經テ安房國野島埼燈臺ニ至ル線内

二十一、安房國野島埼燈臺ヨリ同燈臺ノ西南西七海里ノ點、相模國城ヶ島西端ヨリ真鶴埼ニ至ル線上城ヶ島西端ヲ距ル四海里ノ點ヲ經テ真鶴埼ニ至ル線内

二十二、相模國真鶴埼ヨリ同埼ヨリ伊豆國式根島頂上ニ至ル線ト相模國江ノ島ヨリ伊豆國神子元島燈臺ニ至ル線ト交叉點、神子元島燈臺、石室埼ノ正南三海里ノ點、波勝埼ノ南西三海里ノ點ヲ經テ富士山頂上ニ至ル線内

二十三、伊豆國大瀬埼ヨリ駿河國富士川口中中央、遠江國御前埼ヲ經テ三河國伊良湖埼ニ至ル線内

二十四、遠江國掛塚燈臺ヨリ志摩國神ノ島頂上ヲ經テ紀伊國佐波留島頂上ニ至ル線内

二十五、伊勢國志戸ノ鼻ヨリ紀伊國三木埼ヲ經テ梶取埼ニ至ル線内

二十六、紀伊國猪ノ鼻ヨリ梶取埼ノ南東三海里ノ點ヲ經テ檜野埼ニ至ル線内

二十七、紀伊國須江埼ヨリ出雲埼ニ至ル線内

二十八、紀伊國潮ノ岬ヨリ市江埼ノ南西三海里ノ點、日ノ御埼ヨリ阿波國伊島頂上ニ至ル線上日ノ御埼ヲ距ル三海里ノ點、阿波國大島頂上ノ南東三海里ノ點ヲ經テ土佐國室戸埼ニ至ル線内

二十九、土佐國室戸埼ヨリ烏帽子山頂上ニ至ル線内

三十、土佐國神ノ峯頂上ヨリ加江埼ニ至ル線内

三十一、土佐國龍崎烏帽子山頂上見通線ト葛籠山頂上、今ノ山頂上見通線トニ依リ圍マレタル海面

機船底曳網漁業禁止區域

三十二、土佐國與崎ヨリ足摺崎、沖ノ島楠ヶ鼻、鶴來島西端ヲ經テ豐後國水之子島ニ至ル線内

三十三、伊豫國横島南端ヨリ豐後國鶴見崎ニ至ル線内

三十三ノ二、豐後國水之子島ヨリ深島頂上ノ正東三海里ノ點、日向國一ノ瀬川口中央ノ正東九海里ノ點、都井崎ノ正東七海里ノ點ヲ經テ大隅國觀音崎ニ至ル線内

三十三ノ三、日向國都井崎ヨリ大隅國觀音崎ノ南東三海里ノ點、佐多岬ノ南東三海里ノ點ヲ經テ佐多崎ニ至ル線内

三十四、琉球國沖繩本島喜屋武崎ヨリ渡嘉敷島南端、同島北端沖繩本島殘波岬、伊江島西端ヲ經テ沖繩本島邊戸崎ニ至ル線内

三十五、琉球國沖繩本島危難崎ヨリ久高島頂上ヲ經テ喜屋武崎ニ至ル線内

三十六、渡島國汐首岬ヨリ矢越岬ニ至ル線内

三十七、渡島國矢越岬ヨリ汐首岬ニ至ル線上矢越岬ヲ距ル三海里ノ點ヨリ白神崎ノ正南三海里ノ點、雨垂石岬ノ南西三海里ノ點、日方泊岬、洲根子岬、乙部鼻、後志國太田岬及持田岬、各岬ノ正西三海里ノ點、辨慶岬ノ正北三海里ノ點、雷電岬

ノ北西三海里ノ點、川白岬ノ正西三海里ノ點、神威岬ノ北西三海里ノ點、積丹岬ノ北北東四海里ノ點、丸山崎ヨリ石狩國石狩川口中中央ニ至ル線上丸山崎ヲ距ル六海里ノ點ヲ經テ石狩川口中中央ニ至ル線内

三十八、削除

三十九、後志國高島岬ヨリ石狩國雄冬岬ニ至ル線内

四十、石狩國愛冠岬ヨリ雄冬岬ノ正西三海里ノ點ヲ經テ天鹽國苦前崎ニ至ル線内

四十一、石狩國雄冬岬ヨリ天鹽國燒尻島東端ヲ經テ天鹽川口中中央ニ至ル線内

四十二、天鹽國風連別川口中中央ヨリ北見國利尻島東端、野寒岬ノ正北三海里ノ點、宗谷岬ノ正北五海里ノ點、同岬ノ正東五海里ノ點、沙留岬ノ北東五海里ノ點、能取岬ヲ經テ根室國真牛岳頂上ニ至ル線内

四十三、北見國藻琴山頂上ヨリ北見、根室兩國界知床岬ノ正北五海里ノ點、同岬ノ正東五海里ノ點ヲ經テ千島國國後島ハツチャウス鼻ニ至ル線内

四十四、根室國標津川口中中央ヨリ千島國國後島ルルイ岬ノ正北五海里ノ點、アトイヤ岬ヲ經テ色丹島斜古丹崎ニ至ル線内

機船底曳網漁業禁止區域

機船底曳網漁業禁止區域

二二〇

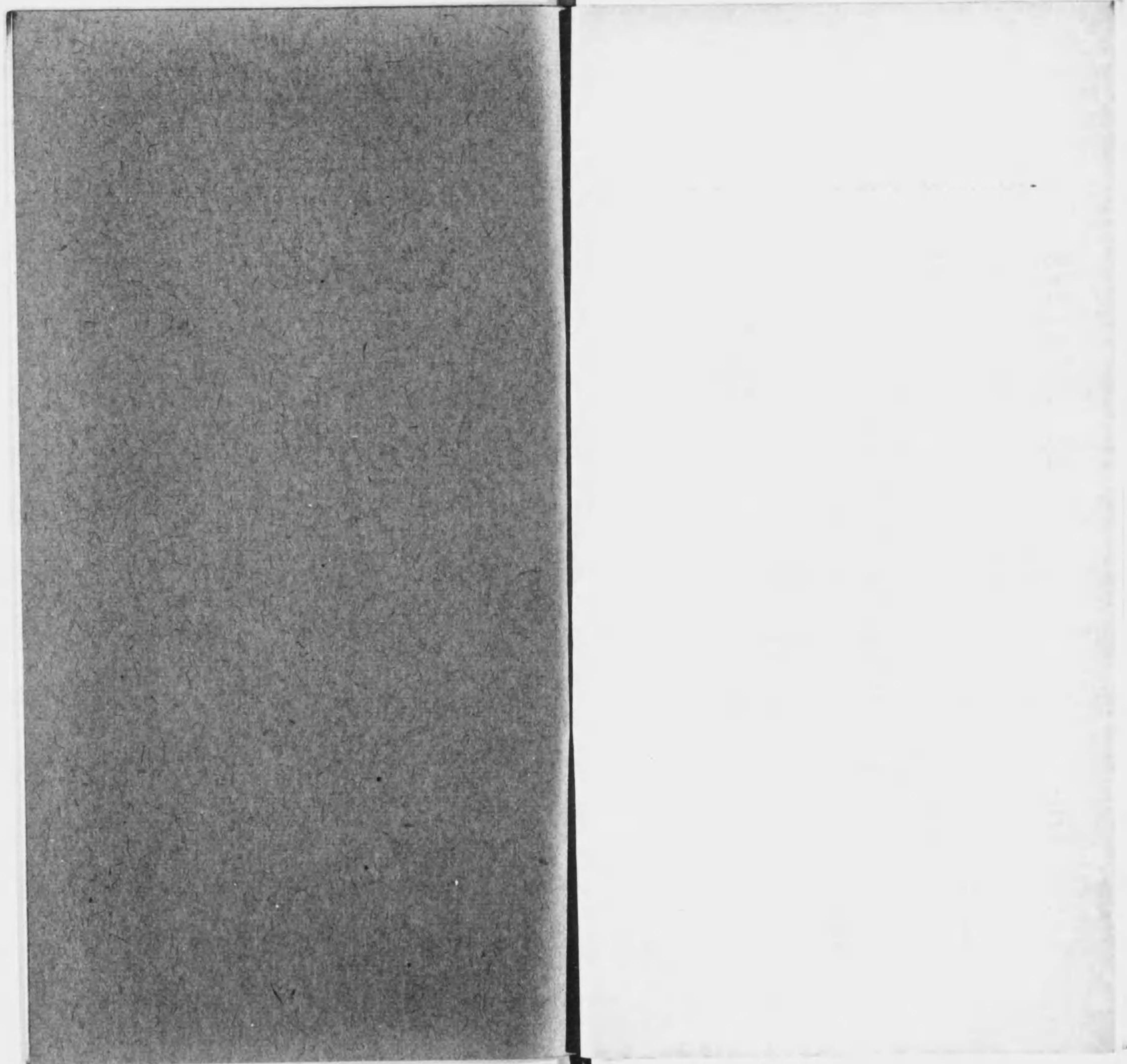
四十五、千島國色丹島斜古丹埼ヨリ國後島アトイヤ岬ニ至ル線上斜古丹埼ヲ距ル五海里ノ點ヨリシベトニタロ埼ノ正東五海里ノ點、コムブウス埼ノ正南五海里ノ點
アキウリ島ノ正南五海里ノ點、根室國納沙布埼、落石埼、釧路國尻羽埼、各埼ノ正南五海里ノ點ヲ經テ尺別川口中央ニ至ル線内
四十六、釧路國釧路川口中央ヨリ十勝國歷舟川口中央ニ至ル線内
四十七、釧路國尺別川口中央ヨリ日高國襟裳岬ノ正南五海里ノ點、同岬ノ南西七海里ノ點、佐瑠太川口中央ノ南西八海里ノ點ヲ經テ膽振國樽前山頂上ニ至ル線内
四十八、膽振國勇拂川口中央ヨリ渡島國黒羽尻岬ニ至ル線内
四十九、渡島國黒羽尻岬ヨリ膽振國勇拂川口中央ニ至ル線上黒羽尻岬ヲ距ル六海里ノ點ヨリ恵山岬ノ正東五海里ノ點、同岬ノ正南五海里ノ點ヲ經テ汐首岬ヨリ矢越岬ニ至ル線上岬首汐ヲ距ル五海里ノ點ニ至ル線内
五十、大隅國種子島、馬毛島、屋久島、奄美大島、薩摩國甑列島、長門國見島、隱岐國、能登國七ツ島、舩倉島、佐渡國、伊豆國大島、渡島國奥尻島、天鹽國焼尻島、天賣島、北見國利尻島、禮文島、千島國擇捉島、各島ノ周圍朔望滿潮線ヨリ

三海里以内

五十一、對島國ノ周圍朔望滿潮線ヨリ六海里以内
五十二、五島列島黃島ノ周圍朔望滿潮線ヨリ十海里以内

機船底曳網漁業禁止區域

二二一



機船底曳網漁業取締規則第七條ノ二ノ規定ニ依ル禁止區域及期間

〔昭和七年十二月二十七日農林省告示第三百七十七號
昭和八年八月二十四日農林省告示第三百十三號改正〕

機船底曳網漁業取締規則第七條ノ二ニ依リ左ノ通機船底曳網漁業ヲ禁止シ昭和八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

各種機船底曳網漁業ヲ禁止スル區域及期間

區 域	期 間
一、東經百三十度ノ線ト出雲國地藏崎ヨリ北北東ノ線トノ兩線間ニ於テ肥前國、筑前國、豐前國、長門國、石見國及出雲國ノ沿岸湖望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面但シ第二號ノ區域ヲ除ク	自六月二日 至八月三十一日
二、出雲國日ノ岬ヨリ隱岐國三度崎ヲ經テ出雲國地藏崎ニ至ル線以内ノ海面	自四月一日 至八月三十一日

機船底曳網漁業取締規則第七條ノ二ノ規定ニ依ル禁止區域及期間

- 三、出雲國地藏崎ヨリ北北東ノ線ト但馬國猫崎ヨリ正北ノ線トノ兩線間ニ於テ出雲國、伯耆國、因幡國及但馬國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面
自六月三十日
至九月三十日
- 三ノ二、但馬國猫崎ヨリ正北ノ線及沿岸朔望滿潮線上福井、石川兩縣界ヨリ北西ノ線ニ依リ圍マレタル海面
自五月十六日
至九月十五日
- 四、沿岸朔望滿潮線上福井、石川兩縣界ヨリ北西ノ線ト陸奥國龍飛崎ヨリ正西ノ線トノ兩線間ニ於テ加賀國、能登國、越中國、越後國、羽前國、羽後國及陸奥國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面
自五月一日
至八月三十一日
- 五、陸奥國龍飛崎ヨリ正西ノ線、渡島國日方泊岬ヨリ西南西ノ線、陸奥國尻矢崎ヨリ東南東ノ線及沿岸朔望滿潮線上十勝、日高兩國界ヨリ南南東ノ線ニ依リ圍マレタル海面
自七月一日
至十月三十一日
- 六、後志國持田岬ヨリ正西ノ線、東經百三十九度ノ線、北緯四十六度ノ線及沿岸朔望滿潮線上北見國枝幸、紋別兩郡界ヨリ北東ノ線ニ依リ圍マレタル海面
自七月一日
至十月三十一日

- 七、沿岸朔望滿潮線上北見國枝幸、紋別兩郡界ヨリ北東ノ線ト北見、根室兩國界知床岬ヨリ北東ノ線トノ兩線間ニ於テ北見國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面
自六月十六日
至八月十五日
- 八、北見、根室兩國界知床岬ヨリ北東ノ線ト沿岸朔望滿潮線上根室、釧路兩國界ヨリ正南ノ線トノ兩線間ニ於テ根室國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面
自三月一日
至五月三十一日
- 九、沿岸朔望滿潮線上根室、釧路兩國界ヨリ正南ノ線ト沿岸朔望滿潮線上十勝、日高兩國界ヨリ南南東ノ線トノ兩線間ニ於テ釧路國及十勝國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面
自六月一日
至七月三十一日
- 十、陸奥國尻矢崎ヨリ東南東ノ線ト陸前國唐桑崎(御崎)ヨリ正東ノ線トノ兩線間ニ於テ陸奥國、陸中國及陸前國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面
自六月一日
至十月三十一日

十一、陸前國唐桑埼(御埼)ヨリ正東ノ線ト安房國野島埼燈臺ヨリ正南ノ線トノ兩線間ニ於テ陸前國、磐城國、常陸國下總國、上總國及安房國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面

自六月十六日
至九月三十日

但シ沿岸朔望滿潮線上茨城、千葉兩縣界ヨリ正東ノ線以南ノ海面ニ於テハ昭和九年十二月三十一日迄ハ自七月一日至八月三十一日

十二、安房國野島埼燈臺ヨリ正南ノ線ト沿岸朔望滿潮線上三重、和歌山兩縣界ヨリ南東ノ線トノ兩線間ニ於テ安房國、相模國、伊豆國、駿河國、遠江國、三河國、尾張國、志摩國、伊勢國及紀伊國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面

自六月一日
至八月三十一日

十三、沿岸朔望滿潮線上三重、和歌山兩縣界ヨリ南東ノ線ト東經百三十度ノ線トノ兩線間ニ於テ紀伊國、阿波國、土佐國、伊豫國、豐後國、日向國、大隅國及薩摩國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合百海里以内ノ海面但シ第十四號ノ區域ヲ除ク

自五月一日
至九月三十日

十四、日向國一ノ瀬川口中中央ヨリ正東ノ線ト鶴戶埼ヨリ正東ノ線トノ兩線間ニ於テ日向國ノ沿岸朔望滿潮線ヨリ沖合三十海里以内ノ海面

自五月一日
至翌年一月卅一日

二艘曳機船手繰網漁業及二艘曳機船打瀬網漁業ヲ禁止スル區域及期間

期 間

一、丹後國成生埼ヨリ正北ノ線及沿岸朔望滿潮線上福井、石川兩縣界ヨリ北西ノ線ニ依リ圍マレタル海面

自四月三十一日
至五月三十一日
自十一月三十日

船舶底曳網漁業取締規則第七條ノ二ノ規定ニ依ル禁止區域及期間

機船底曳網漁業
禁止區域圖（其二）



機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

〔昭和九年八月一日九水第五一六八號
農林次官長瀬貞一各地方長官宛〕

昭和八年法律第三十三號漁業法中改正法律ノ施行ニ伴ヒ今般大正十年農商務省令第三十一號機船底曳網漁業取締規則ハ之ヲ廢止シ更メテ昭和九年七月二十五日農林省令第二十號ヲ以テ機船底曳網漁業取締規則ヲ制定シ八月一日ヨリ之ヲ施行スルコトト相成候處右漁業法ノ改正ハ機船底曳網漁業ニ付同漁業取締上ノ實效ヲ期スル爲同法第三十五條ノ改正規定ニ依リ同漁業ヲ同條ノ規定ニ依ル農林大臣ノ許可ヲ要スル漁業ト爲シ以テ同漁業ノ無許可營業及同條第二項ノ規定ニ依リテ發スル同漁業ニ關スル制限又ハ禁止ノ命令ノ違反ニ對シ同法第五十九條ノ罰則ヲ適用スベキ趣旨ニシテ從テ新規則ハ右漁業法第五十九條ノ規定ノ適用ヲ受クル事項ト然ラザル事項トヲ區別スル爲罰則規定ヲ整備スルコトヲ主トスルモノニ有之候處新規則施行ヲ機トシ機船底曳網漁業ノ現狀ニ鑑ミ特ニ別記「機船底曳網漁業ノ許可及起業ノ認可ノ方針」ヲ確立シ同漁業ノ取締上愈々遺憾ナキヲ期セントスル次第ニ有之候條貴官ニ於テモ右ノ趣旨篤ト御諒知ノ

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

一一三〇

上同漁業ノ取締、指導等ニ付今後一層ノ御協力相煩度依命此段及通牒候也
追テ從前機船底曳網漁業取締規則施行ニ關シ發シタル左ノ通牒ハ之ヲ廢止シタル義
ニ付御了知相成度申添候

- 一、昭和五年十一月二十二日附五水第四二九〇號
- 一、昭和七年三月七日附六局第二六三九號
- 一、昭和七年九月七日附七局第二四二二號
- 一、昭和七年十二月二十七日附七水第五五六五號
- 一、昭和九年四月十六日附九局第一一四號

記

一、機船底曳網漁業ノ許可及起業ノ認可ハ爾今別記「機船底曳網漁業ノ許可及起業ノ認可ノ方針」ニ依リ處理相成ベキ義ニ付貴管下漁業者ニ對シ可然指導方御取計相成度コト

尙機船底曳網漁業取締規則第十條但書ノ許可ハ東經百三十度以東ノ内地沖合海面ニ於ケル機船底曳網漁業ノ實情ニ鑑ミ原則トシテ之ヲ爲サザル方針ニ付豫メ漁業者ニ

周知セシメラレ度キコト

二、機船底曳網漁業取締規則ニ依ル許可申請書又ハ起業ノ認可申請書ヲ受理相成タルトキハ之ヲ精査ノ上意見ヲ附シ特ニ許可又ハ認可ニ關シ條件制限ヲ附スル必要アリト認ムルトキハ其ノ内容及事由ヲ附シ進達相成度キコト尙漁業ノ許可申請書又ハ起業ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ進達相成度キコトイ、漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ヲ爲シタル者ガ昭和八年一月一日以前ニ於テ舊規則又ハ舊規則ニ基ク處分ニ違反シタルニ因リ漁業許可ノ取消、制限其ノ他ノ處分又ハ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其ノ概要

ロ、漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ヲ受ケントスル船舶ガ昭和八年一月一日以前ニ於テ舊規則又ハ舊規則ニ基ク處分ニ違反シタルニ因リ漁業許可ノ取消、制限其ノ他ノ處分又ハ處罰ヲ及ケタルコトアル者ノ當該違反行爲ニ供用セラレタルコトアルトキハ其ノ概要

三、機船底曳網漁業取締規則ニ依リ農林大臣ニ提出スル書類ノ進達ニ付テハ可及的速ナルヲ要シ其ノ管下市町村長ヲ經由セシムル場合ニ於テハ經由促進方嚴重ニ市町村機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

一一三一

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

二二二

長ヲ督勵相成度キコト特ニ許可期間滿了ニ因リ繼續シテ漁業ヲ督マントスル許可ノ申請ハ相當ノ時日ヲ置イテ之ヲ提出セシメ期間滿了ノ少クトモ一月前ニ本省ニ許可申請書ノ到達スル様進達相成度キコト尙期間滿了ヲ除クノ外當事者ノ意思ニ基カザル事實ニ因リ許可ノ效力消滅シタル場合ニシテ其ノ後特ニ漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ヲ申請スルトキハ其ノ事實發生ノ日ヨリ少クトモ六月以内ニ本省ニ許可申請書ノ到達スル様進達相成度キコト

四、機船底曳網漁業取締規則第二條ノ許可申請書、第三條ノ起業認可申請書又ハ第十四條第一項ノ許可申請書ニ關シテハ左ノ諸點ニ付特ニ其ノ作成方指導相成度キコトイ、漁業名稱

一隻ノ船舶ニ依リ手繰網、打瀬網其ノ他ノ底曳網ヲ使用シテ爲ス漁業ハ一艘曳機船底曳網漁業トシ二隻ノ船舶ニ依リ前記ノ漁具ヲ使用シテ爲ス漁業ハ二艘曳機船底曳網漁業トシテ記載セシメ此ノ場合ニ於テ手繰網、打瀬網以外ノ漁具ヲ使用セシトスルモノハ其ノ漁具及漁法ヲ詳記セル書面ヲ添附セシムルコト
ロ、機關ノ種類及馬力

1、總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付

機關ノ種類デイズル式、火球著火式等ノ區別ヲ記入セシムルコト

馬力 既ニ漁船検査證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ付テハ漁船検査證書記載ノ公稱馬力ヲ記入セシメ然ラザル船舶ニ付テハ船舶職員法施行細則第十一條ノ規定ニ依リ計算セル馬力ヲ記入セシムルコト

2、總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付

機關ノ種類 デイズル式、火球著火式等ノ區別ヲ記入セシムルコト(二サイクル又ハ四サイクルニ細別スルヲ要ス)

馬力 左ノ算式ニ依リ算出シタル純馬力數ヲ記入スルト共ニ氣筒ノ徑及氣筒ノ數ヲ記入セシムルコト但シ左表ニ舉グルモノ以外ノ發動機ヲ使用スル場合ニ在リテハ本省ニ於テ之ヲ算定スルヲ以テ馬力數ハ之ヲ記入スルヲ要セザルコト

算式

純馬力 = CND^2

上式ニ於テDハ氣筒ノ徑(吋)

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

二二三

Nハ氣筒ノ數
Cハ帶數(次表ニ依ル)

帶 數	
二「サイクル」デイズル式發動機	0.1
四「サイクル」デイズル式發動機	0.068
二「サイクル」火球著火式發動機	0.042
四「サイクル」電氣著火式發動機	0.044

五、機船底曳網漁業取締規則第二條ノ許可申請書又ハ第三條ノ起業ノ認可申請書ニハ第二條第四項又ハ第三條第二項ノ書類ノ外尙左ノ書類ヲ添附セシメラレ度キコト
 イ、申請ノ事由ヲ記載シタル書面
 ロ、許可又ハ起業ノ認可ヲ受ケントスル船舶他人ノ所有ニ屬スルトキハ其ノ船舶ヲ使用スルコトヲ得ル權利ヲ證スル書面
 ハ、他人ノ機船底曳網漁業ヲ承繼シ許可又ハ起業ノ認可ヲ申請スル場合ハ承繼前ノ

漁業者ニ於テ新許可前又ハ少クトモ新許可ト同時ニ承繼セラルベキ漁業ヲ廢止スルコトヲ證スル書面
 ニ、許可ヲ受ケタル船舶ノ代船ニ依リ許可又ハ起業ノ認可ヲ申請スル場合ハ從來ノ船舶ノ處置方ヲ記載シタル書面
 ホ、建造前又ハ建造中ノ船舶ニ付起業ノ認可ヲ申請スル場合ハ其ノ船舶ノ造船者及造船所名ヲ記載シタル書面
 六、機船底曳網漁業取締規則第十五號第一項ノ届出ニ關シテハ左ノ諸點ニ付指導相成度キコト
 イ、第二號又ハ第三號ノ届出ニハ船舶原簿謄本又ハ船鑑札臺帳謄本ヲ添附セシムルコト
 ロ、第四號又ハ第五號ノ届出ハ四ノロニ依リ記載セシムルコト
 七、機船底曳網漁業取締規則第十七條ノ規定ニ依リ船長ノ氏名及住所ノ届出アリタルトキ又ハ其ノ變更ノ届出アリタルトキハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日迄ニ水産局長ニ報告相成度キコト又同規則第二十五條ノ規定ニ依リ船長又ハ乗組員ノ下船又ハ乗船機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

二二六

- ノ禁止ヲ命ジタルトキハ其ノ都度遲滞ナシ之ヲ水産局長ニ報告相成度キコト
- 八、貴管轄区域内ニ在ル機船底曳網漁船ニ付漁業法第三十五條第一項、機船底曳網漁業取締規則又ハ同規則ニ基ク處分ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ違反一件毎ニ別紙違反事件報告書ノ様式ニ依リ遲滞ナク報告相成度キコト
- 九、機船底曳網漁業取締規則第二十四條ノ規定ニ依リ機船底曳網漁船ノ碇泊ヲ命ジタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ報告相成度キコト此ノ場合ニ於テハニ依ル報告未済ノモノニ付テハ同時ニ其ノ報告相成度キコト
- 十、左ニ掲グル事項ノ違反ニ付テハ必ズ機船底曳網漁業取締規則第二十一條第二項ノ規定ニ依ル行政處分相成ルベキニ付豫メ了知相成度キコト
- (一) 禁止区域内ニ於テ機船底曳網漁業ヲ爲シタルトキ
- (二) 許可ヲ受ケタル操業區域ニ違反シテ機船底曳網漁業ヲ爲シタルトキ
- (三) 取締規則第九條第一項ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シテ機船底曳網漁業ヲ爲シタルトキ
- (四) 取締規則第十條ノ規定ニ違反シテ機船底曳網漁業ヲ爲シタルトキ

(五) 取締規則第十三條ノ規定ニ違反シタル場合ニシテ(一)乃至(三)ノ所爲アリタル疑アルトキ

(六) 取締規則第二十一條第二項ノ規定ニ依ル漁業停止ノ處分又ハ第二十三條若ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依ル碇泊處分ニ違反シタルトキ

十一、機船底曳網漁業取締規則中第八條、第九條第一項、第十條、第十一條、第十二條及第十三條ハ漁業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ノ命令規定ニシテ從ツテ右各規定ノ何レカニ違反セル漁業者ニ對シテハ漁業法第五十九條ノ罰則規定ノ適用アルベキ義ニ付特ニ漁業監督吏員其ノ他ニ了知セシメ置カレ度キコト

十二、機船底曳網漁業取締規則中様式第五號ニ依ル停船信號ノ様式ニ付テハ今回改正相成タルニ付特ニ漁業監督吏員其ノ他ニ了知セシメ置カレ度キコト

違反事件報告書ノ様式

- (1) 漁業者ノ住所氏名
- (2) 違反船々長ノ住所氏名
- (3) 許可番號

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

二二七

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

- (4) 船名及船舶番號又ハ船鑑札番號
- (5) 違反年月日
- (6) 違反ノ場所(犯則ノ位置ヲ示ス圖面添附ノコト)
- (7) 違反事項(例禁止區域内操業、無許可操業、夜間操業等)
- (8) 違反發見ヨリ檢舉ニ至ル迄ノ事情ノ詳細
- (9) 檢舉ニ使用シタル船舶所屬先及船名
- (10) 檢舉者ノ官職氏名
- (11) 告發シタル警察署名又ハ檢事局名
- (12) 違反檢舉當時ノ聽取書及告發書寫
- (13) 違反船々長ヨリ徴シタル始末書
- (14) 地方長官取締規則第二十四條ノ規定ニ依リ違反漁船ノ碇泊ヲ命ジタル上報告スル場合ハ其ノ碇泊期間(自 月 日 至 月 日)及碇泊港

別記

機船底曳網漁業ノ許可及起業ノ認可ノ方針

- 第一、漁業ノ許可及起業ノ認可ハ左ノ場合ノ外ハ之ヲ爲サザルコト
- (一) 許可ヲ受ケ居ル者許可期間滿了ニ因リ當該許可船舶ニ付更ニ漁業ノ許可ノ申請ヲ爲シタルトキ
- (二) 許可ヲ受ケ居ル者ヨリ當該許可船舶ヲ讓受ケ若ハ借受ケ又ハ其ノ返還ヲ受ケ其ノ他當該許可船舶ニ依ル漁業ヲ承繼シタル者其ノ船舶ニ付漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ヲ爲シタルトキ
- (三) 許可ヲ受ケ居ル者當該許可船舶ニ依ル漁業ヲ廢止シ他ノ船舶ニ付漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ヲ爲シタルトキ
- (四) 許可ヲ受ケ居ル者ヨリ當該許可船舶ニ依ル漁業ヲ承繼シタル者其ノ船舶ニ代ヘ他ノ船舶ニ付漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ヲ爲シタルトキ
- (五) 漁業ノ許可ヲ受ケ居ル者當該許可船舶遭難其他ノ不可抗力ニ因リ沈没其ノ他滅失シタル爲滅失ノ日ヨリ六月以内ニ更ニ他ノ船舶ヲ以テ漁業ノ許可又ハ起業ノ認可申請ヲ爲シタルトキ

備考

機船底曳網漁業取締規則施行ニ關スル件

(二)又ハ(四)ニ依ル許可又ハ認可ハ承継前ノ許可ガ新許可前又ハ少クトモ新許可ト同時ニ廢業其ノ他ニ因リ效力ヲ失フベキ場合ニ限り之ヲ爲スモノトス

第二、第一ニ依ル許可又ハ認可ニ當リ東經百三十度以東ノ海面ノミヲ操業區域トスルモノニ付テハ左ノ方針ニ依ルコト

- (一) 第一ノ(二)ニ依ル許可又ハ認可ハ許可(起業認可ノ場合ハ之ニ基ク漁業許可)後二年以内ニ當該許可船舶ノ總噸數ノ二割以上ニ相當スル噸數ヲ之ニ相當スル總噸數ヲ有スル他ノ許可船舶ノ廢業ノ他ノ方法ニ依リ減少スベキ旨ノ條件ヲ誓約スル場合ニ限り之ヲ爲スコト
- (二) 第一ノ(三)又ハ(五)ニ依ル許可又ハ認可ハ從前ノ許可船舶ノ總噸數ノ八割ヲ超エザル總噸數ノ船舶ニ限り之ヲ爲スコト
- (三) 第一ノ(四)ニ依ル許可又ハ認可ハ從前ノ許可船舶ノ總噸數ノ七割ヲ超エザル總噸數ノ船舶ニ限り之ヲ爲スコト
- (四) 申請者ガ相續其ノ他之ト同一視スベキ事由ニ因リ漁業ヲ承継スルモノナル場合ニ於テハ(一)ノ方針ハ之ヲ適用セズ又(三)ノ方針中七割トアルハ之ヲ八割トシテ適用スルコト

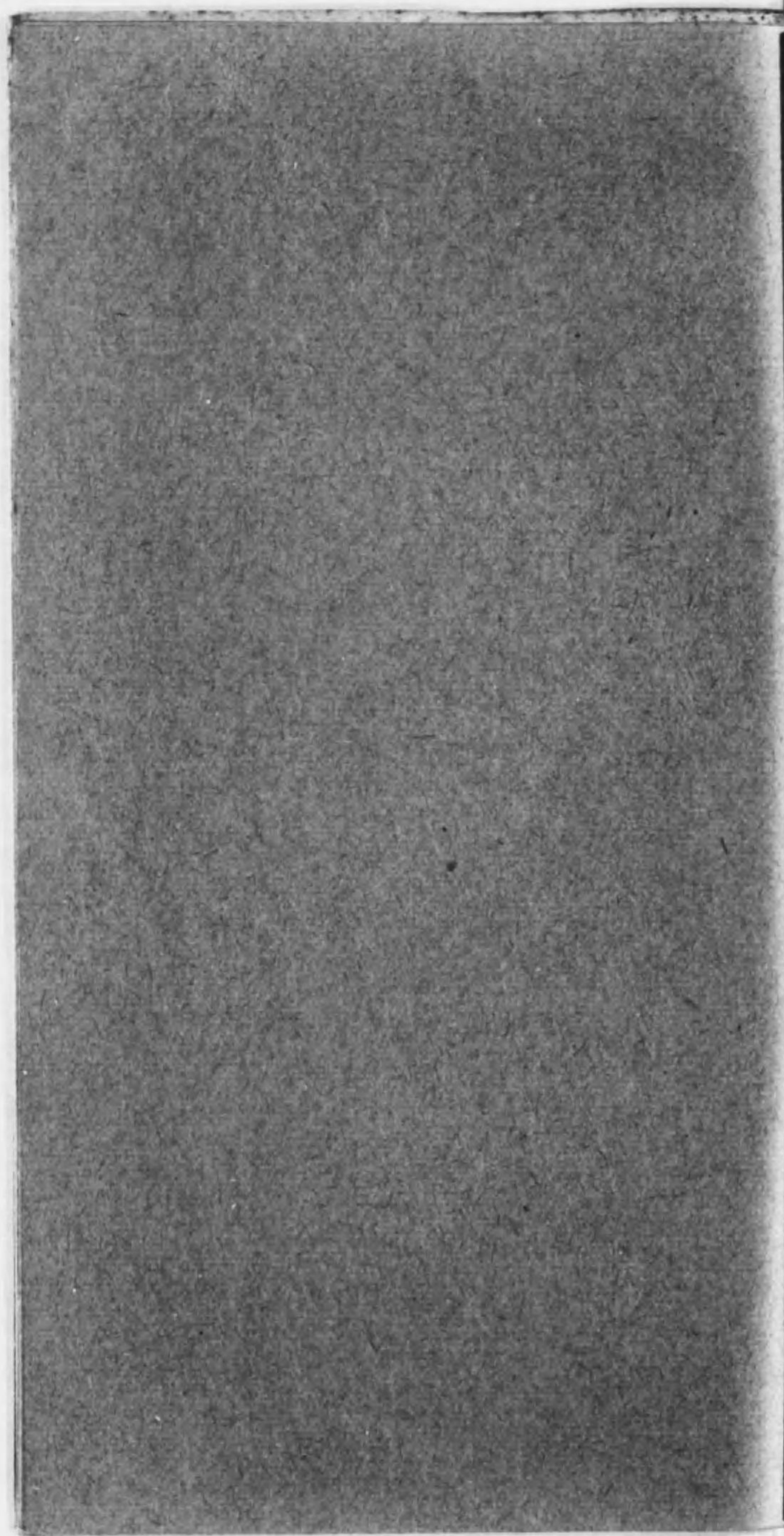
用スルコト

第三、第一ニ依ル許可又ハ認可ニ當リ東經百三十度以西ノ海面ニ操業區域ヲ有スルモノ(東經百三十度以東ノ海面ニ亘リ操業區域ヲ有スルモノヲ含ム)ニ付テハ左ノ方針ニ依ルコト

- (一) 第一ノ(三)乃至(五)ニ依ル許可又ハ認可ハ總噸數三十噸未滿ノ船舶ニ依ル申請ニ對シテハ之ヲ爲サザルコト
- (二) 第一ノ(三)乃至(五)ニ依ル許可又ハ認可ハ從前ノ許可船舶ノ總噸數ヲ超エザル總噸數ノ船舶ニ限り之ヲ爲スコト
- 第四、第一ノ(三)乃至(五)ニ依ル許可又ハ認可ハ二隻以上ノ許可船舶ニ代ヘ其ノ隻數ヲ超エザル隻數ノ船舶ニ依ル漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ルコト此ノ場合ニ於テ第二ノ(二)乃至(四)又ハ第三ノ(二)ノ方針ハ船舶總噸數ノ合計噸數ニ付之ヲ適用シ個々ノ船舶ノ總噸數ニ付テハ之ヲ適用セザルコト
- 第五、起業ノ認可ニ基ク漁業ノ許可ノ申請ニシテ認可書ニ記載シタル船舶總噸數ヲ超ユル總噸數ノ船舶ニ依リ爲シタルモノニ對シテハ許可セザルコト

- 第六、他人ノ起業ノ認可ヲ承繼シ又ハ承繼スル結果トナルベキ漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ニ對シテハ許可又ハ認可セザルコト
- 第七、昭和九年八月一日現在ノ許可船舶ニ付許可ヲ受ケタル馬力ニ依ル機關ヲ引續キ使用セントスル場合ヲ除キ船舶總噸數ト機關ノ馬力トノ比ニ付左ノ標準ヲ超ユル船舶ニ依ル漁業ノ許可又ハ起業ノ認可ノ申請ニ對シテハ許可又ハ認可セザルコト機關ノ馬力ヲ變更セントスル許可ノ申請ニ付亦同様ナルコト
- イ、總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付
- 一、總噸數一ニ對シ機關ノ馬力（公稱馬力）三
- ロ、總噸數二十噸未満ノ船舶ニ付
- 一、總噸數一ニ對シ機關ノ馬力（本通牒四ノロノ2ニ依リ算出シタル純馬力）三・五
- 第八、昭和九年八月一日現在許可ヲ受ケ居ルモノヲ除キ同一船舶ニ付新ニ東經百三十九度以東及以西ノ海面ニ亘リ操業區域ヲ許可セザルコト
- 第九、既ニ許可ヲ受ケタル操業區域以外ノ區域ヲ操業區域ト爲サントスル操業區域變更ノ許可ノ申請ニ對シテハ原則トシテ許可セザルコト

- 第十、本方針ハ東經百六十度以西、北緯二十五度以北、北緯五十一度以南ノ海面ニ操業區域ヲ有セザルモノニ付テハ之ヲ適用セザルコト



秋刀魚漁業ノ制限ニ關スル件

農林省令第十六號

秋刀魚漁業ノ制限ニ關スル件左ノ通定ム

昭和八年八月十二日

農林大臣 後 藤 文 夫

第一條 「オホーツク」海及日本海ヲ除ク北緯三十四度五十四分（野島埼燈臺ヲ通過スル緯度）以北ノ太平洋ニ於テハ七月一日ヨリ九月二十日迄流網、刺網又ハ旋網ヲ使用シテ秋刀魚漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル漁獲物ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

附 則

秋刀魚漁業ノ制限ニ關スル件

秋刀魚漁業ノ制限ニ關スル件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行前秋刀魚漁業ノ目的ヲ以テ出港シタル船舶ニ依リ其ノ船舶ノ漁場ヨリ
最初ニ内地ノ港ニ到着スル迄ノ間ニ於テ爲シタル秋刀魚漁業ニ付テハ之ヲ適用セス

海軍省令第一〇九號
海軍省令第一〇九號
海軍省令第一〇九號

漁業共同施設獎勵規則

大正十四年六月二十六日
農林省令第二十一號
改正昭和八年六月五日
農林省令第十二號

第一條 農林大臣ハ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ掲クル設備ニ對シ獎勵金ヲ交付ス

- 一、船揚及船溜設備
- 二、水産物ノ販賣設備
- 三、水産物ノ製造、加工及處理設備
- 四、貯藏設備
- 五、漁船及漁具設備
- 六、水産物ノ運搬設備
- 七、水産物ノ養殖設備

漁業共同施設獎勵規則

漁業共同施設獎勵規則

二四八

八、漁船救難設備

第二條 獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

- 一、漁業組合又ハ漁業組合聯合會
- 二、水産會法ニ依リ設立シタル水産會
- 三、水産組合又ハ水産組合聯合會
- 四、産業組合又ハ産業組合聯合會
- 五、市町村又ハ之ニ準スヘキモノ
- 六、前各號ノ外農林大臣ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合

第三條 第一條第一號乃至第六號ニ掲クル設備ニ對スル獎勵金ノ額ハ左ノ費用ノ十分ノ四以内トス

- 一、船揚又ハ船溜設備ニ在リテハ漁船ノ船揚場、船溜場又ハ其ノ附屬設備ノ新設、増設又改設ニ要シタル費用
- 二、販賣設備ニ在リテハ水産物ノ共同販賣所又ハ其ノ附屬設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

三、製造、加工又ハ處理設備ニ在リテハ水産物ノ製造場、加工場若ハ處理場又ハ水産物ノ製造、加工若ハ處理ノ爲使用スル機械器具ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

四、貯藏設備ニ在リテハ水産倉庫其他ノ水産物又ハ漁業用品ノ貯藏設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

五、漁船又ハ漁具設備ニ在リテハ漁船、漁具、副漁具、漁船ノ機關若ハ保藏設備、船納屋、漁具納屋又ハ染網場、網干場其ノ他漁具ノ保強設備ノ新設、改造又ハ買入ニ要シタル費用

六、運搬設備ニ在リテハ水産物ノ運搬ノ用ニ供スル船、車又ハ機械器具ノ新設、改造又ハ買入ニ要シタル費用

第一條第七號ニ掲クル設備ニ對スル獎勵金ノ額ハ水産物ノ蕃殖場、蕃養場、種場、人工孵化場、漁礁其ノ他ノ養殖設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用ノ十分ノ五以内トス

第一條第八號ニ掲クル設備ニ對スル獎勵金ノ額ハ漁船遭難ノ救護又ハ豫防ノ用ニ供

漁業共同施設獎勵規則

二四九

スル救護船、救護船格納庫、標識、信號標、無線電信裝置、無線電話裝置其ノ他ノ設備ノ新造、改造又ハ買入ニ要シタル費用ノ十分ノ六以内トス

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

一、設備ニ關スル事業計畫書

二、設計書

三、設備ニ關スル收支豫算書

獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

一、規約、會則、定款又ハ寄附行爲

二、代表者ノ氏名

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者第四條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ設備ヲ讓渡セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

シ

第十二條ノ規定ハ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ讓渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ讓受人ヲ以テ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六條 農林大臣ハ其ノ指定シタル検査員ヲシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ設備ニ付検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ設備完成又ハ物件買入終了後精算書ヲ添ヘ請求書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第八條 獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者解散シタルトキハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ但シ合併後存続スル法人若ハ合併又ハ分割ニ因リテ設立シタル法人ニシテ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル設備ニ付引續キ共同ノ施設ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ第四條第一項第一號ノ事業計畫書ニ定ムル目的及用途ニ從ヒ其ノ設備ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス但シ其ノ使用ニ支障ナキ限り他ノ用途ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得

漁業共同施設獎勵規則

二五二

前項ノ目的又ハ用途ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ設備ヲ讓渡セムトスルトキ亦同シ

第十條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ每事業年度終了後二月内ニ其ノ共同施設事業ノ報告書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十一條 農林大臣及地方長官必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ニ對シ何時ニテモ共同施設事業ニ關スル報告ヲ命シ書類、帳簿又ハ事務執行ノ狀況ヲ検査シ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

- 一、名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ
- 二、規約、會則、定款又ハ寄附行爲ヲ變更シタルトキ
- 三、組合ニ在リテハ組合員ノ加入又ハ脱退アリタルトキ
- 四、代表者ヲ變更シタルトキ
- 五、設備滅失シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキ

第十三條 第四條ノ規定ニ依ル義務ノ存續期間ハ獎勵金交付ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ農林大臣之ヲ定ム

第十四條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ提出者ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第十五條 獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者若ハ其ノ設備ノ承繼人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ獎勵金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得

- 一、本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ
- 二、獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三、事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ大正十四年度ニ限り八月三十一日迄トス

附 則 (昭和八年農林省令第十二號)

漁業共同施設獎勵規則

二五三

漁業共同施設獎勵規則

二五四

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ漁業用品ノ貯藏設備、船納屋又ハ漁具納屋ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ノ願書ニ付イテハ昭和八年度ニ限り之ヲ昭和八年七月三十一日迄トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四條中二月末日迄トアルハ漁業用品ノ貯藏設備、船納屋又ハ漁具納屋ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ノ願書ニ付イテハ昭和八年度ニ限り之ヲ昭和八年七月三十一日迄トス

船舶安全法

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一、船 體
- 二、機 關
- 三、帆 裝
- 四、排 水 設 備
- 五、操舵、繫船及揚錨ノ設備
- 六、救命及消防ノ設備
- 七、居 住 設 備
- 八、衛 生 設 備
- 九、航 海 用 具

船舶安全法

- 十、危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
 - 十一、荷役其ノ他ノ作業ノ設備
 - 十二、電氣設備
 - 十三、前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項
- 前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ
- 一、總噸數五噸未満ノ船舶
 - 二、櫓柁ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶
- 第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、淺濶又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス
- 一、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶
 - 二、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船（十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船

船)

- 三、總噸數百噸以上ノ漁船
- 前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ
- 第五條 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル検査ヲ受クベシ
- 一、初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルトキ行フ精密ナル検査（定期検査）
 - 二、定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査（中間検査）
 - 三、臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査（特殊船検査）
 - 四、前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査（臨時検査）
- 船舶安全法

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間検査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ検査(製造検査)ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未満ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

第七條 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル検査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第八條 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

第九條 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)、最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四

年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス
 船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍
 其ノ効力ヲ有ス
 船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其
 ノ効力ヲ停止ス
 第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登録ヲ抹消セラレ又
 ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有効期間滿了ス
 第十一條 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由
 ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得
 再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更
 スルコトヲ得ズ
 第十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢
 セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯ス
 ベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分
 ヲ爲スコトヲ得

第十三條 船舶乗組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶
 ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備
 衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場
 合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分
 ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又
 ハ一部ヲ準用ス

- 一、本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶
- 二、日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ
 間ノ航行ニ従事スルモノ
- 三、前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

第十五條 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ

船舶安全法

二六二

相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條 滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ヲ使用シタルトキ

二、航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三、制限汽壓ヲ超エテ汽罐ヲ使用シタルトキ

四、最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五、滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六、無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七、中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八、前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九、管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋

問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十二條 船舶乗組員虚偽ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査
 ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五
 號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ滿載吃水線ノ検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又
 ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ
 相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコ
 ト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十四條 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル検査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シ
 タル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十五條 本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法
 人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ

道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

第二十六條 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在
 リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之
 ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ
 適用ス

第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他
 必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス
 第二十八條 危險物ノ運送禁止、遭難者救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事
 項並ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ
 以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用
 セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設ク
 ルコトヲ得

附 則

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定並ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前項ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

一、總噸數二十噸未満ノ帆船

二、總噸數二十噸未満ノ漁船

三、平水區域ノミヲ航行スル帆船

第三十三條 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第三十四條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其

ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

一、航行期間滿了ノ爲船舶検査法ニ依リ検査ヲ受クベキトキ

二、船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

三、船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有効期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有効期間ノ滿了ト看做ス

第三十七條 他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

〔參照〕

明治六年八月九日第二百九十二號布告ハ危害品船積ノ法則ナリ

此ノ法則ハ船舶ノ航行ニ關シテ、一、船舶ノ航行ニ關シテ、二、船舶ノ航行ニ關シテ、三、船舶ノ航行ニ關シテ、四、船舶ノ航行ニ關シテ、五、船舶ノ航行ニ關シテ、六、船舶ノ航行ニ關シテ、七、船舶ノ航行ニ關シテ、八、船舶ノ航行ニ關シテ、九、船舶ノ航行ニ關シテ、十、船舶ノ航行ニ關シテ、十一、船舶ノ航行ニ關シテ、十二、船舶ノ航行ニ關シテ、十三、船舶ノ航行ニ關シテ、十四、船舶ノ航行ニ關シテ、十五、船舶ノ航行ニ關シテ、十六、船舶ノ航行ニ關シテ、十七、船舶ノ航行ニ關シテ、十八、船舶ノ航行ニ關シテ、十九、船舶ノ航行ニ關シテ、二十、船舶ノ航行ニ關シテ、二十一、船舶ノ航行ニ關シテ、二十二、船舶ノ航行ニ關シテ、二十三、船舶ノ航行ニ關シテ、二十四、船舶ノ航行ニ關シテ、二十五、船舶ノ航行ニ關シテ、二十六、船舶ノ航行ニ關シテ、二十七、船舶ノ航行ニ關シテ、二十八、船舶ノ航行ニ關シテ、二十九、船舶ノ航行ニ關シテ、三十、船舶ノ航行ニ關シテ、三十一、船舶ノ航行ニ關シテ、三十二、船舶ノ航行ニ關シテ、三十三、船舶ノ航行ニ關シテ、三十四、船舶ノ航行ニ關シテ、三十五、船舶ノ航行ニ關シテ、三十六、船舶ノ航行ニ關シテ、三十七、船舶ノ航行ニ關シテ、三十八、船舶ノ航行ニ關シテ、三十九、船舶ノ航行ニ關シテ、四十、船舶ノ航行ニ關シテ、四十一、船舶ノ航行ニ關シテ、四十二、船舶ノ航行ニ關シテ、四十三、船舶ノ航行ニ關シテ、四十四、船舶ノ航行ニ關シテ、四十五、船舶ノ航行ニ關シテ、四十六、船舶ノ航行ニ關シテ、四十七、船舶ノ航行ニ關シテ、四十八、船舶ノ航行ニ關シテ、四十九、船舶ノ航行ニ關シテ、五十、船舶ノ航行ニ關シテ、五十一、船舶ノ航行ニ關シテ、五十二、船舶ノ航行ニ關シテ、五十三、船舶ノ航行ニ關シテ、五十四、船舶ノ航行ニ關シテ、五十五、船舶ノ航行ニ關シテ、五十六、船舶ノ航行ニ關シテ、五十七、船舶ノ航行ニ關シテ、五十八、船舶ノ航行ニ關シテ、五十九、船舶ノ航行ニ關シテ、六十、船舶ノ航行ニ關シテ、六十一、船舶ノ航行ニ關シテ、六十二、船舶ノ航行ニ關シテ、六十三、船舶ノ航行ニ關シテ、六十四、船舶ノ航行ニ關シテ、六十五、船舶ノ航行ニ關シテ、六十六、船舶ノ航行ニ關シテ、六十七、船舶ノ航行ニ關シテ、六十八、船舶ノ航行ニ關シテ、六十九、船舶ノ航行ニ關シテ、七十、船舶ノ航行ニ關シテ、七十一、船舶ノ航行ニ關シテ、七十二、船舶ノ航行ニ關シテ、七十三、船舶ノ航行ニ關シテ、七十四、船舶ノ航行ニ關シテ、七十五、船舶ノ航行ニ關シテ、七十六、船舶ノ航行ニ關シテ、七十七、船舶ノ航行ニ關シテ、七十八、船舶ノ航行ニ關シテ、七十九、船舶ノ航行ニ關シテ、八十、船舶ノ航行ニ關シテ、八十一、船舶ノ航行ニ關シテ、八十二、船舶ノ航行ニ關シテ、八十三、船舶ノ航行ニ關シテ、八十四、船舶ノ航行ニ關シテ、八十五、船舶ノ航行ニ關シテ、八十六、船舶ノ航行ニ關シテ、八十七、船舶ノ航行ニ關シテ、八十八、船舶ノ航行ニ關シテ、八十九、船舶ノ航行ニ關シテ、九十、船舶ノ航行ニ關シテ、九十一、船舶ノ航行ニ關シテ、九十二、船舶ノ航行ニ關シテ、九十三、船舶ノ航行ニ關シテ、九十四、船舶ノ航行ニ關シテ、九十五、船舶ノ航行ニ關シテ、九十六、船舶ノ航行ニ關シテ、九十七、船舶ノ航行ニ關シテ、九十八、船舶ノ航行ニ關シテ、九十九、船舶ノ航行ニ關シテ、一百、船舶ノ航行ニ關シテ、

船舶安全法施行令

第一條 船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項
第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六
條及第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グ
ルモノニ之ヲ準用ス

第二條 船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法
第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第三條 逕信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出
シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ
認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ農林大臣ニ議スベシ

- 一、船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍
- 二、滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍
- 三、船舶ノ從業制限

船舶安全法施行令

二七〇

四、船舶検査ノ種類、時期及機關

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國船舶検査規則ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令施行後一年ヲ限り本令ニ依ラザルコトヲ得

船舶安全法施行規則

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域内ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ

各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス

第二條 本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スルハ短國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ

- 一、專ラ漁獵ニ従事スル船舶
- 二、漁獵ニ従事スル船舶ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ
- 三、專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶
- 四、專ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ従事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ

船舶安全法施行規則

二七二

從事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ

前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事スル船舶ヲ、前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ從事スル船舶ヲモ包含ス

第四條 本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地内ノ港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ

前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、木材積取人夫、移住民其ノ他之ニ準ズル者又ハ軍隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ

北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ

第八條 本令ノ規定ニ依ル申請、届出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章 構造及設備

第九條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船、被曳船其ノ他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ鋼船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付テハ船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶安全法第三條ノ規程ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水

船舶安全法施行規則

二七三

船舶安全法施行規則

二七四

線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 滿載吃水線

第十三條 水先船、專ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶、漁業ノ取締ニ從事スル船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船「シアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

第十四條 汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一、夏期滿載吃水線
- 二、冬期滿載吃水線
- 三、冬期北大西洋滿載吃水線
- 四、熱帶滿載吃水線
- 五、前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一、海水滿載吃水線
 - 二、冬期北大西洋滿載吃水線
 - 三、前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線
- 滿載吃水線ノ位置ノ決定並ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第十五條 國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス
- 區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第十六條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載場所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得
- 第十七條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

船舶安全法施行規則

二七五

船舶安全法施行規則

二七六

木材滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一、夏期木材滿載吃水線
- 二、冬期木材滿載吃水線
- 三、冬期北大西洋木材滿載吃水線
- 四、熱帶木材滿載吃水線
- 五、前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水木材滿載吃水線

第十八條 船舶ハ平水區域又ハ瀬戸内（和歌山縣海草郡田倉崎ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門崎ヨリ德島縣板野郡孫崎ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關崎ニ至ル線及福岡縣企救郡門司崎ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線内ノ區域）ニ於テハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得但シ平水區域又ハ瀬戸内外ニ出航セントスル船舶ニ付テハ其ノ區域内ニ於ケル最後ノ港ヲ發航スルトキノ超過吃水ハ該港ヨリ其ノ區域外ニ達スル迄ニ推進ノ爲消費スベキモノノ重量ニ相當スルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十九條 船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遲延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ超ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

第二十條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ存續スルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限り之ヲ存置スルモ妨ナシ

第四章 無線電信

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一、旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ超エザル區域内又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於

船舶安全法施行規則

二七七

一、ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ
 二、旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル區域ノミヲ航行スルモノ
 三、旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超エザル區域内ノミヲ航行スルモノ

四、無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條 船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限り無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一、無線電信ノ施設ナクシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ就航スル爲他ヨリ回航スルトキ

二、無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

三、無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ變更シタル爲其ノ施設ヲ要

スルモノト爲リタルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海ニ従事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ従事スル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ハ之ヲ適用セス

第二十四條 第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ、前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第五章 航行區域

第二十五條 航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一、平水區域
- 二、沿海區域
- 三、近海區域
- 四、遠洋區域

第二十六條 平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス
 第一區 神奈川縣三浦郡千駄埼ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉縣君津郡富津埼ニ至ル線内

- 第二區 静岡縣清水市三保埼ヨリ同縣田方郡御濱埼ニ至ル線内
- 第三區 愛知縣渥美郡伊良湖埼ヨリ三重縣志摩郡菅島ヲ經テ同郡松ヶ鼻ニ至ル線内
- 第四區 和歌山縣東牟婁郡駒埼ヨリ同郡太地埼ニ至ル線内
- 第五區 和歌山縣有田郡宮埼ヨリ同縣海草郡田倉埼ヲ經テ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江崎燈臺ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線内
- 第六區 兵庫縣加古郡加古川口ヨリ兵庫縣飾磨郡男鹿島及香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬ノ鼻ニ至ル線、愛媛縣溫泉郡辨山ヨリ山口縣大島郡平郡島ヲ經テ同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線並ニ同島小山ノ鼻ヨリ同郡揖取埼ニ至ル線内
- 第七區 山口縣熊毛郡島田川口ヨリ同縣都濃郡笠戸島火振埼ヲ經テ同縣佐波郡向島翁埼ニ至ル線及同島牛ヶ頭ヨリ同縣吉敷郡丸尾埼ニ至ル線内
- 第八區 愛媛縣西宇和郡女岬埼ヨリ同縣東宇和郡大埼ヲ經テ同縣北宇和郡赤埼鼻ニ至ル線内
- 第九區 大分縣東國東郡美濃埼ヨリ同縣北海部郡關埼、同郡沖無折島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經テ同郡鶴見埼ニ至ル線内

- 第十區 山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口ニ至ル線並ニ福岡縣遠賀郡沖田埼ヨリ同縣企救郡馬島及山口縣豐浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル線内
- 第十一區 山口縣大津郡今岬ヨリ同郡青海島西北端ニ至ル線及同島東端ヨリ同縣阿武郡虎ヶ埼ニ至ル線内
- 第十二區 福岡縣糸島郡西浦三埼ヨリ同縣糟屋郡志賀島大埼ニ至ル線内
- 第十三區 福岡縣糸島郡串埼ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島及同郡加部島ヲ經テ同郡波戸埼ニ至ル線内
- 第十四區 佐賀縣東松浦郡值賀埼ヨリ同郡向島、長崎縣北松浦郡黒島及同郡青島ヲ經テ同郡津埼ニ至ル線内
- 第十五區 長崎縣上縣郡唐洲埼ヨリ同縣下縣郡郷埼ニ至ル線及同郡折瀬鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線内
- 第十六區 長崎縣北松浦郡大瀬埼ヨリ同郡平戸島魚見埼ニ至ル線及同島坊山埼ヨリ同郡黒島ヲ經テ同郡七郎埼ニ至ル線内
- 第十七區 長崎縣北松浦向後埼ヨリ同縣西彼杵郡番所埼ニ至ル線内

船舶安全法施行規則

二八二

- 第十八區 長崎縣西彼杵郡三重埼ヨリ同郡野母埼ニ至ル線内
- 第十九區 長崎縣南高來郡瀬詰埼ヨリ藤本縣天草郡天草下島大島埼ニ至ル線、同島鶴埼ヨリ同郡下須島「ビシヤゴ」瀬ノ鼻ニ至ル線、同島尾埼ヨリ鹿兒島縣出水郡長島大埼ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九十度ニ引キタル線内
- 第二十區 鹿兒島縣揖宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同縣肝屬郡小根占埼ニ至ル線内
- 第二十一區 鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計呂麻島「カネンテ」埼ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡江仁屋離、同郡奄美大島曾津高埼及同郡枝手久島戸倉埼ヲ經テ同郡埼美大島倉木埼ニ至ル線内
- 第二十二區 島根縣知夫那知夫島帶ケ埼ヨリ同郡西ノ島漕廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北端ニ至ル線及同島木櫓ケ埼ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線内
- 第二十三區 島根縣八束郡地藏埼ヨリ鳥取縣西伯郡日野川口ニ至ル線内
- 第二十四區 京都府與謝郡鷺埼ヨリ同縣加佐郡博奕埼ニ至ル線内
- 第二十五區 福井縣敦賀郡立石埼ヨリ同郡「ヲカ」埼ニ至ル線内

- 第二十六區 石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音埼ニ至ル線内
- 第二十七區 青森縣東津輕郡明神埼ヨリ同縣下北郡貝埼ニ至ル線内
- 第二十八區 宮城縣宮城郡花淵埼ヨリ同縣桃生郡宮戸島萱ノ埼ニ至ル線内
- 第二十九區 北海道上磯郡葛登支岬ヨリ同縣田郡函館山大鼻岬ニ至ル線内
- 第三十區 北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同縣谷郡尻別川口ニ至ル線内
- 第三十一區 北海道高島郡高島岬ヨリ同小樽郡神威古潭ニ至ル線内
- 第三十二區 北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同厚岸郡大黒島ヲ經テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線内
- 第三十三區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線内
- 第三十四區 澎湖廳馬港要港區域内
- 第三十五區 高雄州貓鼻頭ヨリ同州鷺鑿鼻ニ至ル線内
- 第二十七條 沿海區域ハ左ニ掲グル各區域トス
- 一、北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奥尻島、本州、青森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九

船舶安全法施行規則

二八三

船舶安全法施行規則

二八四

州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甌列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、臺東廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

二、千葉縣安房郡野島埼ヨリ東京府神津島ヲ經テ靜岡縣賀茂郡石室埼ニ至ル線内ノ區域

三、秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣鮎倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山埼ニ至ル線内ノ區域

四、山口縣豐浦郡觀音埼ヨリ慶尙南道蔚埼ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ慶尙南道古突山半島南東端ニ至ル線内ノ區域

五、北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線内ノ區域

六、東京府野島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

七、鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

八、沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

第二十八條 近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域トス

近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ

第一區 東ノ東經百七十五度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域

第二區 東ハ東經百三十度、西ハ同百二十度、南ハ北緯四度、北ハ同二十七度ノ線ニ依リ限ラレタル區域及暹羅海灣

第三區 東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第二區ノ區域ヲ除キタル區域

第二十九條 遠洋區域ハ總テノ水面ヲ包含スル區域トス

第三十條 管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルコトヲ得

第三十一條 管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ、第三級船ニ付テハ近海

以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ

第三十二條 管海官廳總噸數二百噸未滿ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ

一、北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ同斜里町知床岬ニ至ル區間

二、擇捉島沿岸

三、北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間

四、青森縣下北郡尻矢崎ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間

五、宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間

六、茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東崎ニ至ル區間

七、静岡縣榛原郡御前崎ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖崎ニ至ル區間

第三十三條 船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ

船舶ノ最快速力ヲ以テ二時間以内ニ又平隱ナル季節ニ限り四時間以内ニ往復シ得ベ

キ平水區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十五條 特殊ノ用途ニ使用スル船舶已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十六條 前二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十七條 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得

一、日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二、船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三、航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ

四、航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ
前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳
ニ提出スベシ

第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附
記スベシ

第三十八條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ航行區域ヲ變更セントスルトキハ申請
書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添へ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可
ヲ受クベシ

第三十九條 漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

第六章 最大搭載人員

第四十條 最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ旅客、船員
及其ノ他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム

旅客、船員及其ノ他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定
員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコト

ヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付
テハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第四十二條 船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算シ一年以下
ノ者ハ之ヲ算入セズ

第四十三條 左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ

- 一、船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乗人
- 二、税關吏員、検査吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員ニ非ズシテ船内ニ於テ業務
ニ従事スル者

第四十四條 第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船検査ヲ受
ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶検査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船検査證書
ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船
舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、
航行豫定時間六時間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅

客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル

第四十五條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶検査手帖ル添へ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受タベシ

第四十六條 旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル表示ヲ爲スベシ

一、一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級又定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ寢臺數ト同一ナル室ニハ之ヲ表セザルモ妨ナシ

二、三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リテハ各客棚ノ定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲ゲベシ

三、臨時旅客ヲ搭載スル室ニハ其ノ旅客ノ種類及定員ヲ表示スベシ

旅客若ハ船員ニ非ザル者ヲ搭載スル室及雜居船員室ニハ其ノ室名及定員ヲ、其ノ他ノ船員室ニハ其ノ室名ヲ表示スベシ

第四十七條 旅客室ト船員室トハ常ニ區別シ置クベシ

旅客及船員ハ第四十三條各號ニ掲グル者ノ室ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

旅客室又ハ船員室ニ第四十三條各號ニ掲グル者ヲ搭載シタルトキハ最大搭載人員ニ關シテハ之ヲ旅客又ハ船員ト看做ス

第四十八條 旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ノ室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ以テ其ノ定員ト看做ス

第七章 制限汽壓

第四十九條 制限汽壓ハ機關ノ構造及現狀ニ應ジ船舶機關規程ニ依リ之ヲ定ム

第五十條 制限汽壓ヲ定メタルトキハ管海官廳ハ逃汽試験ヲ執行シテ安全辨ヲ封鎖ス其ノ封鎖ヲ解散シタルトキ亦同シ

第五十一條 船長ハ安全辨ノ鍵ヲ船内ニ保管シ已ムコトヲ得ザル事申アル場合ヲ除クノ外安全辨ノ封鎖ヲ解放スルコトヲ得ズ

已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ安全辨ノ封鎖ヲ解放シタルトキハ船長ハ運帶ナク最寄海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全辨ノ封鎖ヲ申請スベシ

第八章 検査ヲ行フ場合

第五十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受ケルモノト爲リタルトキハ定期検査ヲ受クベシ

第五十三條 定期検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十四條 中間検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ汽船及蒸汽機關ヲ有スル帆船ニ在リニハ其ノ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタル時ヨリ十二月毎ニ、其ノ他ノ帆船ニ在リテハ其ノ定期検査ヲ受ケタル時ヨリ二十四月毎ニ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當スルモノ之ヲ受ケズシテ引續キ航海ヲ爲スコトヲ必要トスル事情アル船舶ニ付テハ第二百二十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 第一百十八條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ中間検査ヲ受クルコトヲ要セズ前項ノ船舶ガ第一百十八號各號ニ該當セザル船舶ト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ當該船舶ノ現状ニ應ジ次回中間検査ヲ受クベキ時期ヲ指定ス

第五十六條 中間検査ハ之ヲ受クベキ時期ニ該當セザル場合ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十七條 特殊船舶検査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一、移民船ガ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二、船舶ガ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ

三、船舶ガ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船舶検査ヲ行フ

第五十八條 臨時検査ハ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一、第三十六條第一項、第三十七條第二項、第三十八條、第四十五條、第五十一條

第二項、第二百二十二條第三項若ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依ル申請又ハ第百

七十七條ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト

認メタルトキ

二、修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ因リ滿載吃水線ヲ變更スベキ必要アルトキ

三、滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要セザル船舶ガ滿載吃水線

ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要スルモノト爲リタルトキ

四、第十六條ノ規定ニ依リ區畫滿載吃水線ヲ標示シ又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依

リ木材滿航吃水線ヲ標示セントスルトキ

五、管海官廳ノ指定スル所ニ依リ船舶ノ特定部分ニ付検査ヲ受クベキ時期ニ該當シタルトキ

六、前各號ニ掲グル場合ノ外船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

七、其ノ他管海官廳ニ於テ検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

第五十九條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ繫船ヲ再ビ航行ノ用ニ供セントスル場合ニ於テ繫船期間中ニ中間検査ヲ受クベキ時期ヲ經過シタルトキハ中間検査ヲ、未ダ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當セザルトキハ臨時検査ヲ受クベシ

第六十條 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査ヲ受ケタルトキハ中間検査ヲ、臨時検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタルトキハ臨時検査ヲ行ハズ

第六十一條 朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ船舶安全法施行地ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造検査ヲ行ハズ

前項ノ船舶方其ノ製造中日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セラルルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造検査ヲ行ハザルコトアルベシ

第六十二條 管海官廳ハ船舶検査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第一項ノ規定ニ依ル製造検査ヲ行ハザルコト得

船舶検査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依ル製造検査ヲ行ハズ

第六十三條 船舶用機關ニシテ其ノ備附クベキ船舶ノ特定セザルモノハ左ノ各號ニ掲グルモノニ限リ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受クルコトヲ得

- 一、往復動汽機 汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ
- 二、タービン汽機 三百軸馬力以上ノモノ
- 三、發動機 氣筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ
- 四、汽罐 受熱面積ガ二十平方メートル以上ノモノ

第九章 検査申請ノ手續

第六十四條 定期検査、中間検査、特殊船検査又ハ臨時検査ヲ受ケントスルトキハ船

船舶検査申請書（第一號書式）ヲ管海官廳ニ提出スベシ
検査申請者ハ船舶ガ初メテ検査ヲ受クル場合ヲ除クノ外船舶検査申請書ニ船舶検査
手帖ヲ添附スベシ

第六十五條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ
左ニ掲グル圖面ヲ添附スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ其ノ一部
ヲ省略スルコトヲ得

一、船體中央橫截面圖（縱通板各條ノ幅ヲモ記號スベシ）

二、船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖

三、甲板及艙内平面ノ諸材構造配置圖

四、甲板平面圖

五、船體一線圖

六、排水量曲線圖（最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一センチメー
トル排水量ヲ示スモノ）

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ、木船ニ在リテハ外板ノ

外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第六十六條 前條第一項ニ掲グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキ

ハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル裝置並ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載

吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶検査申請書ニ添附スベシ

一、限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中心ヨリ縱ノ「メタセンタ」ニ至ル高サヲ

示ス曲線圖

二、限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃水面ノ中心（浮泛中心）ニ

至ル距離ヲ示ス曲線圖

三、限界線迄ノ橫截面積ヲ示ス曲線圖

四、可許長曲線圖

五、可許長計算表

第六十七條 製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期検査ヲ受ケントスルトキハ船舶
検査申請書ニ其ノ合格證明書ヲ添附スベシ但シ製造検査ニ引續キ定期検査ヲ受ケン
トスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用檢關ヲ船舶ニ備附クル場合ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第六十八條 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ當該船級協會ノ検査ニ關スル證明書ヲ添附スベシ

第六十九條 製造検査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造著手前製造検査申請書(第二號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕様書並ニ船體及検査ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第七十條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶用検査ノ製造者ハ機關検査申請書(第三號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ機關検査申請書ニ製造仕様書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添附シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條 第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ隻船検査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項

ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

七十二條 第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ検査ヲ受ケントスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出ヅベシ

第十章 検査ノ執行

第七十三條 検査ハ船舶検査執行地地於テ之ヲ行フ

船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條 検査ハ申請ニ依リ船舶検査執行地外ニ於テ之ヲ行フコトナルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケントスルトキハ検査申請者ハ其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條 逕信大臣ノ特ニ指定シタル船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル場合ニ限り休暇日ト雖モ検査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日検査ヲ行フコトアルベシ

第七十六條 船舶ノ検査ヲ行フトキハ検査事項ニ應ジ船長又ハ機關長若シ船長又ハ機關長差支アルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ
前項ニ掲グル者ノ乗組マザル船舶ノ検査、製造検査又ハ船舶用機關ノ検査ヲ行フトキハ検査申請者ノ適當ノ者ヲ指定シテ之ニ立會ハシムベシ
第七十七條 前條ニ依リ検査ニ立會ヒタル者ハ検査ニ必要ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閱ニ供スベシ
第七十八條 検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ検査ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
第七十九條 管海官廳ハ検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ第六十四條乃至第七十一條ニ掲グル書類ノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得
第八十條 検査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條 管浦官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書（第四號書式）ヲ検査申請者ニ交付ス

検査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭ヲ以テ管海官廳ニ標示ノ検査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條 管海官廳定期検査、中間検査、特殊船舶検査又ハ臨時検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管スベシ

船舶検査手帖ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條 船舶検査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交附ヲ申請スベシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帖ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶安全法施行規則

船舶検査手帳ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官
廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章 検査ノ方法

第一節 製造検査

第八十四條 製造検査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、材料並ニ工事ニ付検査ヲ行
フ

第八十五條 製造検査申請者ハ工事著手前製造仕様書及圖面ニ依リ設計ニ付検査ヲ受
ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付検査ヲ受クベシ

一、船體

- (一) 龍骨ヲ据附クルトキ並ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ
- (二) 肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ
- (三) 内龍骨、縦通材又梁ヲ取附ケントスルトキ
- (四) 甲板及外板ヲ數枚張リタルトキ
- (五) 水壓試験ヲ執行スルトキ

二、機關

- (一) 外板ヲ張リ了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザルトキ
- (二) 船體完成シタルトキ
- (三) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ
- (四) 諸軸、諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ
- (五) 發動機ノ氣槽又ハ汽罐ニ使用スル銅板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ
- (六) 發動機ノ氣機若ハ汽罐ノ各部ヲ曲線、鍛接又ハ銲接シタルトキ
- (七) 發動機ノ氣槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ銲孔ヲ仕上ゲタルトキ
- (八) 汽機、發動機、空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部、船尾管、推進器又ハ復水
器ノ仕上ヲ了リタルトキ
- (九) 汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器、復水器、「ポンプ」又ハ減
速裝置ノ組立ヲ了リタルトキ
- (十) 水壓試験ヲ執行スルトキ
- (十一) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

船舶安全法施行規則

船舶安全法施行規則

三〇四

前項第二號ノ發動機ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ヲ、汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス

第二節 定期検査

第八十六條 定期検査ニ於テハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付精密ナル検査ヲ行フ

- 一、船體及ビ機關
- 二、設備及屬具
- 三、滿載吃水線
- 四、無線電信施設

第八十七條 船體ニ關スル定期検査ニ於テハ二重底、水槽、油槽及活魚箱ノ水壓試驗外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試驗並ニ水密戸ノ開閉裝置、載貨門、載炭門、舷窓及上甲板上諸開口ノ閉鎖裝置ノ效力試驗ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試驗ヲ省略スルコトヲ得

第八十八條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ新ニ使用スル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試

驗ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ他管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

欄	種	別	試	驗	壓	力
一	新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐		汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七以下ナルトキハ其ノ二倍ノ壓力、每平方糎七方糎三・五トキハ其ノ一・五倍ニ每平方糎ノ制限汽壓ニ加ヘタル壓力			
二	重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐		汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎三・五トキヲ加ヘタル壓力			
三	主汽管		汽罐ノ制限汽壓ノ二倍			
四	止給水管及管副給水管		汽罐ノ制限汽壓ノ二倍			
五	復水器ノ管取附部		復水器ノ頂部上二米ノ水高壓力ニ相當スル壓力			
六	噴油ポンプノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル等並ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具		常用最大壓力ノ二倍及每平方糎二・八トキノ中大ナル壓力			

船舶安全法施行規則

三〇五

七	前欄ニ掲グルモノヲ除キ機關室ニ在ル油管	每平方糎二疋
八	燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管	常用最大汽壓ノ二倍
九	蒸汽過熱器	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
十	潤滑油裝置	常用最大壓力ノ二倍
十一	壓縮空氣管	常用最大壓力ノ一・五倍
十二	冷却裝置	常用最大壓力ノ二倍
十三	銲接合又ハ無接合ノ氣櫃	制限壓力ノ一・五倍
十四	鍛接合又ハ銲接合ノ氣櫃	制限壓力ノ二倍
十五	油 槽	頂板上ニ一・五米ノ水高壓力ニ相當スル壓力但シ強壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍

第八十九條 定期検査ニ於テハ左ノ設備及屬具ニ付效力試験ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一、排水裝置
 - 二、消防裝置
 - 三、操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置
 - 四、羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
 - 五、端艇揚卸裝置
 - 六、汽笛又ハ汽角
 - 七、信號器
 - 八、端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具
 - 九、照明裝置
- 第九十條 定期検査ハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ之ヲ行フ但シ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上架ヲ猶豫スルコトヲ得

船舶安全法施行規則

三〇八

前項ノ規定ニ拘ハラズ總噸數五十噸未滿ノ木船ニ付テハ据船ノ儘又湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ定期検査ヲ行フコトヲ得

第九十一條 汽船ノ第一回定期検査ニ於テハ速力試験ヲ執行ス

汽船ノ第二回以後ノ定期検査ニ於テハ前回速力試験執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試験ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條 管海官廳船舶ノ定期検査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現狀ニ應ジ且左表ニ掲グル長サ及速力ヲ標準トシ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ従事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船舶ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得

第一級船	資格	
	船種	長サ(米)
汽船	六〇以上	最強速力(一時間ニ付) 一〇海里以上

第四級船	第三級船		第二級船		帆船
	汽船	帆船	汽船	帆船	
帆船	無制限	無制限	二〇以上	二〇以上	二五以上
汽船	無制限	無制限	二〇以上	三十以上	八海里以上
帆船	無制限	無制限	六海里以上		

甲板ヲ有セザル船舶、頂部ヲ水密ニ爲シ得ザル船舶又ハ進水後二十年以上ノ推進機關ヲ有スル木船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ズ
船舶ノ資格ハ管海官廳ニ於テ其ノ現狀ニ應ジ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

船舶安全法施行規則

三〇九

第三節 中間検査

第九十三條 中間検査ニ於テハ第八十六條各號ニ掲グル事項ニ付簡易ナル検査ヲ行フ
管海官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ特定ノ事項ニ付定期検査ニ準ジ中間検査ヲ行
フコトヲ得検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタ
ルトキ亦同ジ

第九十四條 左ノ各號ニ掲グル船舶ヲ除キ鋼船ノ中間検査ニ於テハ船舶ヲ入渠又ハ上
架セシメテ其ノ船底、舵及推進器ヲ検査ス

一、湖川ノミヲ航行スル船舶

二、旅客船ニ非ザル船舶ニシテ長サ十五メートル未満ノモノ

第九十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項各號ニ掲グル船舶ノ中間検査ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ之ヲ入
渠又ハ上架セシムルコトヲ得

第四節 特殊船舶検査及臨時検査

第九十五條 特殊船舶検査ニ於テハ第五十七條ニ掲グル各場合ニ應ジ必要ナル居住、衛

生、救命及消防ノ設備其ノ他人命ノ安全ニ關スル設備ヲ検査ス

第九十六條 臨時検査ニ於テハ第五十八條各號ノ場合ニ應ジ管海官廳ニ於テ必要ト認
ムル事項ニ付検査ヲ行フ

第五節 雜則

第九十七條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ付テハ製造中
検査ナルカ又ハ出來上リ検査ナルカノ區別ニ從ヒ船舶ノ製造検査又ハ定期検査ニ關
スル規定ヲ準用ス

第九十八條 定期検査ニ於テハ前回ノ中間検査又ハ其ノ後ノ検査ニ於テ定期検査ニ準
シ検査ヲ行ヒタル事項ニ關シテハ管海官廳ノ見込ニ依リ精密ナル検査ヲ省略スルコ
トヲ得

中間検査ニ於テハ其ノ以前六月以内ニ中間検査ニ準シ検査ヲ執行シタル事項ニ付テ
ハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第九十九條 同形ノ汽機又ハ發動機ニ依ル推進軸系二箇以上ヲ有スル船舶ノ機關ニ關
スル定期検査ニ於テハ機關ノ年齢、現状、製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ

規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤ等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得
十二月毎ニ中間検査ヲ受クベキ船舶ノ機關ノ部分ニシテ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノニ付テハ當該部分ノ年齢、現狀等ヲ考慮シ管海官廳對於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲニ酌スルコトヲ得

第百條 製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第一回定期検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ備附クル場合ノ検査ニ於テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外既ニ検査ヲ受ケタル事項ノ検査ヲ省略ス

第百一條定 期検査又ハ中間検査ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ其ノ螺旋軸ヲ拔取り検査ヲ行フ但シ湖川ノミヲ航行スル船舶又ハ旅客船ニ非ザル長サ十五メートル未満ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

一、螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第一積螺旋軸ニシテ前回拔取りテ検査シタル後

三年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ三年ニ達スベキトキ

二、螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第二種螺旋軸ニシテ前回拔取りテ検査シタル後

二年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ二年ニ達スベキトキ
前項ニ依リ螺旋軸ヲ拔取り検査スベキ場合ト雖モ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ検査ヲ行フ爲臨時検査ヲ受クベキ時期ヲ指定シ該時期迄螺旋軸ノ拔取りヲ猶豫スルコトヲ得

第百二條 管海官廳検査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ第九十一條ニ該當セザル場合ト雖モ船舶ノ速力試験若ハ試運轉又ハ機關ノ試運轉ヲ執行スルコトヲ得

第十二章 検査ノ準備

第百三條 検査申請者ハ本章ノ規定ニ從ヒ検査ノ準備ヲ爲スベシ

第百四條 船體ニ關スル定期検査ノ準備ヲ分チテ左ノ三種トス

一、第一種準備

二、第二種準備

三、第三種準備

船舶安全法施行規則

第一百五條 第一回定期検査ニ於テハ當該船舶ガ進水後四年未滿ナルトキハ第二種準備、四年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スベシ但シ製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ準備ヲ輕減セシムルコトヲ得

製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第二回定期検査又ハ第三種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第一種準備、第一種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第二種準備、第二種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第三種準備ヲ爲スベシ
進水後二十五年ヲ經過シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三種準備ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百六條 第一種準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一、船體ノ内外部適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト
- 二、石炭及脚荷ヲ取出シ船體ニ固著セザル物品ハ成ルベク取片附ケ又浚水道覆板及通風路覆板ハ悉ク取除ケ泥芥箱ヲ開キ浚水吸水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ内外部ヲ總テ掃除スルコト

- 三、主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖厨、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ浚水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸汽ヲ通シテ掃除スルコト
- 四、水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 五、入渠又ハ上架シタル船舶ハ舵ヲ扛舉又ハ取外シ舵針及壺金等ヲ検査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ落シ又本船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、填隙及固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムルコト

- 六、鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジシ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底内張板ヲ一條宛取離スコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ内張板一條宛取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳

- ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト
- 七、木船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上宛拔取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト
- 木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト
- 八、木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板其ノ他ノ外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
- 九、汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト
- 十、船首尾艙ハ燃料油ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 十一、二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト
- 十二、第八十七條ニ掲グル水密試験ノ準備ヲ爲スコト

十三、滿載吃水線ノ標示ヲ検査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト

第一百七條 第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

- 一、鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シ彎曲部ニ於テ内張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽及深油槽ノ部分ニ於ケル内張板ヲ全部取離スコト
- 木船ニ於テハ首尾ヲ通シテ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離シ且首尾ヲ通シテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離スコト
- 二、木船ニ於テハ水線部外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
- 三、二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

第一百八條 第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

- 一、鋼船ニ於テハ艙内内張板ノ大部分ヲ取離シ且艙内ニ防熱裝置ス施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内張板ノ半數ヲ取離スコト

二、石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト

三、木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ上部外板ヲ一條宛取離スコト

四、銅船ニ於テハ船體内外ノ要部ヲ錆落スルコト

五、銅船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲其ノ上面ノ木甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

木船ニ於テハ梁端ヲ検査スル爲梁壓材ニ接スル甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

六、銅船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル銅板ハ其ノ厚サヲ検査スル爲之ニ試孔ヲ穿ツコト

七、深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ内部ヲ掃除シ危険性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

八、木船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト

九、橋及斜橋ノ楔ヲ拔取ルコト但シ橋又ハ斜橋ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ

一、往復動汽機

(一) 「ピストン」及滑辨ヲ取出スコト

(二) 「クランク」軸ノ受金ノ上半並ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且

「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

二、「タービン」汽機

「タービン」筒上半及「ローター」ヲ扛擧スルコト

三、發 動 機

(一) 「ピストン」ヲ取出シ其ノ冷却部ヲ検査シ得ル様解放スルコト

船舶安全法施行規則

船舶安全法施行規則

三二〇

- (二) 氣筒蓋附屬ノ諸辨ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト
 - (三) 「クランク」軸ノ受金ノ上半並ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
 - (四) 消音器ヲ掃除スルコト
- 四、推進器及推進軸系
- (一) 各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト
 - (二) 船尾管後端軸受部内面上部ト螺旋軸トノ間隙ヲ測定シ得ル様爲シ置クコト
- 五、減速裝置
- (一) 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル様爲シ置クコト
 - (二) 齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト
 - (三) 液體ニ依ル動力傳導裝置ノ翼車ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト
- 六、汽罐
- (一) 罐内ノ水ヲ排出シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ充分掃除スルコト

- (二) 火床棧ヲ取出スコト
 - (三) 煙室扉ヲ開キ置クコト
 - (四) 安全辨、塞汽辨、給水制限辨及放水辨ノ辨匣ヲ開キ置クコト
- 七、給水裝置
- (一) 給水「ポンプ」ノ「プランヂヤ」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且辨匣ヲ開キ置クコト
 - (二) 給水濾器及給水加熱器ヲ開キ置クコト
- 八、復水裝置
- (一) 復水器蓋ヲ開キ置クコト
 - (二) 抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト
- 九、吸水排水及冷卸ノ裝置
- (一) 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル辨及「コック」ヲ開キ置クコト
 - (二) 塗水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「プランヂヤ」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且辨匣ヲ開キ扇車「ポンプ」ナルトキハ扇車ヲ取出スコト

船舶安全法施行規則

三二二

船舶安全法施行規則

三二二

- (三) 芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト
- (四) 油、清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト

十、潤滑油裝置

潤滑油「ポンプ」及其ノ辨匣並ニ油濾器ヲ開キ置クコト

十一、空氣壓縮機、氣槽及掃除空氣「ポンプ」

(一) 空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且辨匣及冷却器蓋ヲ開キ置クコト

(二) 氣槽ノ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

(三) 掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ辨匣ヲ開キ置クコト

十二、油槽

油ヲ排出シ人孔又ハ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

十三、船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十四、水壓試驗

第八十八條ニ掲グル水壓試験ノ準備ヲ爲スコト

十五、機關備品

適當ノ場所ニ陳列スルカ又ハ近寄り易キ場所ニ整備シ置クコト

第一百十條 設備及屬具ニ關スル定期検査ノ準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一、屬具中取離サザレバ検査シ得ザルモノハ之ヲ取離シ消防、操舵、繫船、揚錨及

揚貨ノ機具、手用浚水「ボシブ」並ニ艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、

船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取捕ヘ置キ錨鎖、索、船燈、信

號器、救命器具其ノ他ノ航海用具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト

二、端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト

三、帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ爲スコト

四、第八十九條ニ掲グル效力試験ノ準備ヲ爲スコト

五、操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸受ヲ開キ置クコト

六、應急用動力設備、點燈設備、水密戸閉閉裝置及荷役設備ノ原動機ノ要部ヲ管海

官廳ノ指示スル所ニ依リ解放スルコト

第一百十一條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ管海官廳ノ指示ス

船舶安全法施行規則

三二三

船舶安全法施行規則

三二四

ル所ニ依リ船體ノ構造及現状ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ
第百十二條 中間検査ニ於テハ第百六條第五號第百十條第一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ

機關ヲ備フル船舶ノ中間検査ニ於テハ前項ノ準備ノ外左ノ準備ヲ爲スベシ

一、往復動汽機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋、滑辨匣蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

二、「タービン」汽機

「タービン」筒ノ上半ヲ扛舉シ「ローター」軸ノ受金ノ上半ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

三、發 動 機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

四、推進器及推進軸系

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

五、減 速 裝 置

各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減速齒車ノ齒ヲ全般ニ亘リ検査シ得ル様爲シ置クコト

六、汽 罐

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ

七、吸水及排水ノ裝置

最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル辨及「コック」並ニ冷水「ポンプ」ノ蓋及辨匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ置キ且芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

八、潤滑油裝置

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重裝置ナルトキハ其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

九、空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」

空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋並ニ辨匣ヲ開キ置クコト但シ二箇以上ヲ備

船舶安全法施行規則

三二五

フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

十、船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準シ準備ヲ爲スコト

十一、機關備品

定期検査ニ準シ準備ヲ爲スコト

第百十三條 特殊船舶検査及臨時検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十四條 船舶用機關ノ出來上リ検査ニ於テハ第百九條ニ準シ當該機關ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十五條 管海官廳ハ前十條ニ規定スル検査ノ準備ニ付船舶ノ大小、用途、年齢、構造、前検査ノ成績又ハ現状ニ依リ適當ニ増減セシムルコトヲ得

第百十六條 検査申請者検査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

第十三章 證書

第百十七條 船舶検査證書ヲ分チテ甲種船舶検査證書（第五號書式）、乙種船舶検査證書（第六號書式）及漁船検査證書（第七號書式）ノ三種トス

甲種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶ニ、乙種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザル船舶ニ、漁船検査證書ハ漁船ニ之ヲ交付ス

第百十八條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書ノ有効期間ハ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一、推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未満ノ帆船

二、旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未満ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモノ

第百十九條 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ當該船舶ノ現状ニ應シ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第百二十條 特殊船舶検査證書ヲ分チテ甲種特殊船舶検査證書（第八號書式）、乙種特殊船舶検査證書（第九號書式）、丙種特殊船舶検査證書（第十號書式）及漁船特殊検査證書（

第十一號書式)ノ四種トス

甲種特殊船舶検査證書ハ移民船ニ、乙種特殊船舶検査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ、丙種特殊船舶検査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊船舶検査證書ハ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス

特殊船舶検査證書ノ有効期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限り前項ノ有効期間ハ二航海以上ニ亘リ之ヲ定ムルコトヲ得

第二百一十一條 合格證明書(第十二號書式)ハ製造検査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ニ之ヲ交付ス

第二百二十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

一、船舶安全法既行地外ニ於テ船舶検査證書ノ有効期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地内ノ目的港迄回航スルトキ

二、船舶安全法旅行地ニ在ル船舶ガ船舶検査證書ノ有効期間滿了シ又ハ航海中其ノ有効期間滿了スベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケ検査ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地内ノ最初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ遲滯ナク其ノ事實ヲ届出ツベシ

第一項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表並ニ次回定期検査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶ガ當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶検査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第二百二十三條 第五十三條ノ規定ニ依リ定期検査ヲ行ヒタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ滿了シタルモノト看做ス